

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	01	01	生涯学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	02	生涯学習推進事業

実施計画整理番号	
101010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>・生涯学習情報の提供、市民カレッジの開催、学社融合事業の推進を行うことにより、市民が様々な学習活動に参加できるようにする ・生涯学習活動を行うすべての市民に成果の発表の場を提供するとともに、新たな学びを求める市民が学習機会に出会える場を創出する。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>・生涯学習推進協議会を通じて市民の意見を取り入れる ・ハロータウンの発行 ・体験活動ボランティア活動支援センター情報誌ハローウィンドウの発行 ・生涯学習フェスティバルの開催</p>
<p>令和元年度の具体的な目標</p> <p>学習活動参加者の増加を図る。</p>	<p>令和元年度スケジュール</p> <p>・生涯学習推進協議会の開催(年2回) ・市民カレッジの開催(全7回開催) ・学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ・ハローウィンドウの発行(年2回発行予定) ・ハロータウンの発行(年3回発行予定)</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	456	456	429	456	456	383	426	426	365	431	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	456	456	429	456	456	383	426	426	365	431	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	生涯学習推進協議会の開催	32	32	0	生涯学習の推進に関する事項について審議した(新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議)。現状維持。
②	市民カレッジの開催	56	56	30	新たな分野からも講師を招き、市民に対する学習機会の提供を図った。現状維持。
③	学社融合事業	51	51	50	新治小学校にてポッチャ教室を開催し、地域教育力の活性化を図った。現状維持。
④	体験活動ボランティア活動支援センターの運営	281	281	280	広報紙「ハローウィンドウ」の発行を通して、青少年の奉仕活動・体験活動の充実を図った(年2回)。現状維持。
⑤	ハロータウンの発行	0	0	0	市民に対し生涯学習情報の提供を行った(年3回)。現状維持。
⑥	生涯学習・ボランティア活動の推進	6	6	5	茂原市体験活動ボランティア活動支援センターの活動を支援した。現状維持。
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		426	426	365	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・生涯学習推進協議会(書面会議)の開催(3/12)
- ・市民カレッジの開催(9/2、12/9、1/7、2/3)
- ・学社融合事業の実施(11/1)
- ・ハローウィンドウの発行(7/4、12/11)
- ・ハロータウンの発行(7/1、10/15、1/15)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	101010101
1	01	01	01	生涯学習推進事業	9	05	01	02	生涯学習推進事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジについては、台風19号、豪雨被害及び新型コロナウイルス感染症対策の観点から全7回中4回実施 広報紙ハローウインドウの発行部数 12,500部×2回発行 					<ul style="list-style-type: none"> 市民カレッジの講座1回あたりの参加人数が平成30年度より2人増加し27人となった。 				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 各事業とも、市民の生涯学習活動を推進するために必要な事業であり、妥当である。			A:有効である 講座の開催や、各種広報紙の発行などを通して多角的に生涯学習の推進を行うことが出来ており、有効である。			A:効率的である 市民カレッジについては、専門的な講座を地域にしながらにして受講できる点で効率的な運営が図られている。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している 生涯学習ガイドブック・自主グループ一覧表等を作成し、学習機会の提供を求め市民に適切に提供されている。			A:実現している 生涯学習推進協議会において市民が委員として生涯学習の推進に関する審議をしている。			A:実現している ハロータウンの編集委員として職員とボランティアが協働して編集活動に当たり生涯学習情報の提供に努めている。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			生涯学習に対する協議、情報提供、講座等の事業開催と各方向からの成果を挙げたことで、市民の生涯学習活動の推進を図ることができた。今後の市民の学習意欲に応えられるよう、より多くの学習機会を提供できるようにしたい。						
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			市民が様々な学習活動に参加できる機会の創出に一定の成果があったと認めることができる。引き続き、市民の生涯学習活動を推進するための取組を実施するとともに、市民の学習に対するニーズ等の把握に努めるものとする。						
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> 講座の開催回数 広報紙の発行部数 					<ul style="list-style-type: none"> 講座の受講者数 				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
学習活動参加者の増加を図る。					<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進協議会の開催(年2回) 市民カレッジの開催(全7回開催) 学社融合事業の実施(新治小学校で実施予定) ハローウインドウの発行(年2回発行予定) ハロータウンの発行(年3回発行予定) 					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	02	01	茂原市地域未来塾

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	13	地域未来塾事業

実施計画整理番号	
101020101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何をを行うか)
学習が遅れがちな中学3年生を対象として、自主的な学習をサポートするための教室を開き、学習環境の充実を図る。	学習が遅れがちな中学生に学習機会を提供し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図る。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
市内3中学校区で実施する。	・東中学校区 期間:8/22~2/1 計25回 ・南中学校区 期間:8/19~2/1 計25回 ・富士見中学校区 期間:8/22~2/8 計25回

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	0	0	0	0	461	384	462	462	362	616	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	307	255	307	307	241	409	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	154	129	155	155	121	207	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	地域未来塾の開催	462	462	362	東中学校区で23回、南中学校区で27回、富士見中学校区で24回の開講。拡大。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
・実施回数					
⑨					
⑩					
事業費計		462	462	362	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)					
・東中学校区	期間:8/22~2/1	長期休暇中及び毎週土曜日	会場:東郷福祉センター	参加生徒数:1名	実施回数:23回
・南中学校区	期間:8/19~2/22	長期休暇中及び毎週土曜日	会場:鶴枝公民館	参加生徒数:3名	実施回数:27回
・富士見中学校区	期間:8/22~2/29	長期休暇中及び毎週土曜日	会場:豊田福祉センター	参加生徒数:3名	実施回数:24回

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	01	02	01	茂原市地域未来塾

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	13	地域未来塾事業

整理番号
101020101

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況		
	2校区から3校区に増加。		3校区、7名平均の出席率:86.3%		
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由
	A:妥当である	県より補助を受け実施する事業であり妥当である。	A:有効である	毎週開講することで、学習習慣が身に付くため有効である。	B:やや効率的である 費用は講師の謝礼及び最低限の教科書等の消耗品費のみであり、削減の余地は無し。ただし、参加生徒数が伸び悩み、効率的な予算執行となりづらい。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由
	C:実現の余地がない	実施校区を限定している事業であるため公表していない。	A:実現している	講師として市民が参加しており、運営方法についても意見をいただいている。	A:実現している 勉強方法など、学習習慣の確立に向けて参加生徒にアドバイスを行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点				
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		未来塾の運営は地元の元教員等の有償ボランティアによって適正に行われ、事業目的である学習習慣の確立と学力の向上について、終了後のアンケート結果からも達成できたものとする。ただし、対象生徒数に対する参加者数が少ないため効率的な事業と言い切れない。今後の課題は、開催校の拡大、参加生徒の増加及び講師、会場の確保である。		
企画政策課での評価とその理由					
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		学習習慣の確立と基礎学力の定着に、一定の成果を挙げたと認められる事業であり、引き続き、学習機会の提供に努めることとする。また今後は、より一層対象生徒の参加を促すとともに、登録講師の増加を図ることで、取組の充実に努めていただきたい。			
政策調整会議での評価とその理由					
庁議における方針					

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	・実施回数		・アンケートで学習習慣が身に付いたと答えた生徒の割合	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
市内全6中学校区の生徒を対象に実施する。		期間:8月~2月 市内2会場、各25回実施		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	07	子育て支援事業

実施計画整理番号	
102010201	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	<p>幼児期の子どもを持つ保護者の子育てに関する悩みやストレスを軽減させ、家庭教育を充実させる。</p>	<p>地域における子育て支援センターとして開かれた幼稚園づくりを推進する。</p>
	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 	<p>公立幼稚園3園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。場を開催する予定。</p>	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	320	320	320	243	240	234	240	240	232	240	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	320	320	320	243	240	234	240	240	232	240	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	ふれあい広場事業	240	240	232	地域のニーズに応え、地域に根ざした子育て支援を実施した。
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
⑩						
事業費計			240	240	232	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

公立幼稚園3園において遊具やおもちゃで遊んだり、各園独自の内容による「わらべ歌」「絵本の読み聞かせ」「人形劇」などを実施した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	02	01	02	子育て支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	07	子育て支援事業

整理番号
102010201

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	開催回数 延べ18回(6回/園)		参加した未就園児・保護者 延べ417人 (豊岡99人、五郷96人、新茂原222人)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	子育てふれあい広場や子育て相談などの子育て支援事業は、基本計画にも位置づけられている。	A:有効である	地域の子育て支援に対するニーズに応じている。	A:効率的である	未就園児とその保護者を対象として、効率的な実施に努めている。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	広報、各幼稚園で事業実施の周知をしている。	A:実現している	参加した保護者は、気軽に子育て相談をすることができる。	C:実現の余地がない	行政が行う子育て世帯のための事業である。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各公立幼稚園において、未就園児のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供することができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業は、未就園児及び保護者のための交流の場の提供と家庭教育に関する悩みの解消に、一定の成果を挙げたと認められる。今後も、より効果的な周知を図るとともに、家庭教育に関する情報提供と子育て支援の充実に努めていきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	・ふれあい広場の開催回数		参加した未就園児・保護者の延べ人数	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
公立幼稚園2園が、6月から12月(8月を除く)に各園独自の内容でふれあい広場を開催する予定。		<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児及び保護者のための遊び場や保護者同士の交流の場を提供する。 ・保護者と幼稚園との協力関係を形成する。 		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	01	01	中学校施設整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	03	01	中学校施設整備事業

実施計画整理番号	
103010102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 老朽化の激しい学校施設について、大規模改造工事を実施し、学習空間の改善を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 中学校施設の大規模改造工事
令和元年度の具体的な目標 ・仮設校舎建設 ・富士見中学校駐車場整備の実施 ・富士見中学校大規模改造工事(I期)の実施 ・学校協議 ・保護者への周知を図る	令和元年度スケジュール ・富士見中学校大規模改造工事に伴う仮設校舎建設の長期継続契約を締結する。 ・富士見中学校の駐車場を整備する。 ・富士見中学校大規模改造工事の契約を締結し、I期工事に着手する。 ・継続して学校との協議に努める。 ・保護者に対して工事へのお知らせを通知する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	0	0	0	0	34,560	34,560	628,276	566,770	245,371	402,688	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	158,299	158,299	66,107	141,406	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	24,000	23,300	374,700	374,700	127,900	215,700	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	10,000	10,000	10,000	10,000	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	10,560	11,260	85,277	23,771	41,364	35,582	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中学校大規模改造工事	628,276	566,770	245,371	I期工事に着手したが、台風や大雨による災害により令和2年度へ繰越した。I期工事及びII期工事の完了に向け継続して事業を進めていく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		628,276	566,770	245,371	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・仮設校舎賃貸借契約を締結(長期継続契約・R1.10.1~R2.3.31)し、仮設校舎を建設した。 ・大規模改造工事の請負契約を締結し、I期工事に着手した。 ・大規模改造工事監理業務委託契約を締結した。	

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	01	01	中学校施設整備事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	03	01	中学校施設整備事業

整理番号
103010102

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況 ・仮設校舎建設 ・大規模改造工事(I期工事)の着手 ・学校協議を実施 ・保護者や周辺自治会への周知	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況 I期工事進捗率 84%
---	---

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	老朽化した学校施設を整備し、子どもたちの教育環境の充実を図る事業である。	A:有効である	大規模改造工事を実施することにより、学校施設の維持管理が充実し、子ども達の安全性の確保が図れる。	B:やや効率的である	国の交付金や起債を活用することにより、財政負担を軽減できる。しかし、物価上昇などのコスト増の要因や現在の財政状況から一部実施できない工事箇所がある。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	学校の先生方と十分な協議を実施。学校を通して保護者などへお知らせを行う。	A:実現している	子ども達や先生方に対して改修に向けてのアンケートを実施した。	A:実現している	学校の先生方と工事期間中の学校運営についてなどの問題解決に取り組んでいる。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	計画どおり、仮設校舎については賃貸借契約を締結し、大規模改造工事及び工事監理業務委託の契約を締結、工事に着手できた。台風15号や10月25日の大雨による災害により、工期に支障が生じたため、令和2年度へI期工事を繰越したが、概ね工事は進めることができた。令和2年度では引き続き、令和2年12月の工事完了に向け、I期工事及びII期工事を進めていく。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	災害等による工事の遅れはあるものの、当初の目的は概ね達成していると認められる。引き続き、計画的に大規模改修工事を実施し、教育環境の整備に努めるものとする。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定 I期工事及びII期工事	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定 工事進捗率
--	-------------------------------------

令和2年度における具体的な目標 ・繰越した大規模改造工事のI期工事を実施し、完了させる。 ・I期工事完了後、速やかにII期工事に着手し、12月に完了させる。 ・継続した協議(市・学校・工事監理業者・施工業者)	令和2年度における事務事業スケジュール ・I期工事を完了させ、II期工事に着手する。 ・継続して学校や業者との協議に努める。 ・交付金や起債など、財源確保に向けた各種申請手続きを行う。
--	--

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	01	01	小学校施設整備事業(本納地区小中一貫型校)

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	03	02	小学校施設整備事業

実施計画整理番号	
103010103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何をを行うか)
本納小学校裏の崖が土砂災害警戒区域等に指定されることを受けて、本納中学校敷地内に新校舎(8教室及び配膳室)を建設し、本納小学校を移転させ、児童等の安全を確保する。また、特色ある教育を目指し、小中一貫型校の導入を進めていく。	本納中学校敷地内に新校舎(8教室及び配膳室)を建設し、本納小学校
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
・本納中学校敷地内に新校舎建設工事を実施するため、設計業務委託を締結する。	・本納地区小中一貫型校校舎建設工事設計業務委託の締結

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	0	0	0	0	0	0	18,648	18,648	17,600	336,073	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75,508	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	13,900	13,900	12,900	192,000	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	0	0	0	0	0	0	4,748	4,748	4,700	68,565	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	本納地区小中一貫型校校舎建設工事設計業務委託	18,648	18,648	17,600	本納小学校校舎建設工事の設計業務委託を実施した。新校舎建設に向け継続して事業を進めていく。
②	本納地区小中一貫型校校舎建設工事	0	0	0	
③	備品購入	0	0	0	
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		18,648	18,648	17,600	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・本納中学校敷地内に本納小学校の新校舎建設工事を実施するため、設計業務委託契約を締結した。 ・新校舎建設に向け、学校と協議した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103010103
1	03	01	01	小学校施設整備事業(本納地区小中一貫型校)	9	02	03	02	小学校施設整備事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	本納小学校新校舎建設工事を実施するための設計業務を委託した。					設計業務委託を実施し、本納小学校の児童等の安全対策を図るための新校舎建設工事の準備をすることができた。				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 本納中学校敷地内に新校舎を建設し、子ども達の安全を確保する事業である。			A:有効である 新校舎を建設することにより、子どもたちの安全が確保され、また、小中一貫教育を導入することで学力の向上はもとより、生活面や部活動等、様々な場面での教育効果が期待できる。			A:効率的である 国の負担金や交付税措置のある起債を活用することにより、財政負担を軽減できる。また、中学校の空き教室を利用することにより、新校舎建設に係る費用を削減できる。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる 学校の先生方と十分な協議を実施。今後は保護者や地域住民に対して移転や建設について十分な説明を行なっていく。			B:実現に向けて取り組んでいる 学校の先生方と十分な協議を実施。今後は保護者や子ども達からの意見を聞ける機会を設けるよう取り組んでいく。			B:実現に向けて取り組んでいる 学校の先生方と工事期間中の学校運営や、新校舎で必要となるものについての協議に取り組んでいる。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			年度当初より設計業務委託契約に向け準備を進め、4月中に本納地区小中一貫型校校舎建設工事設計業務委託の契約を締結、翌年3月に業務を完了させた。						
企画政策課での評価とその理由										
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)			当初の予定どおりに設計業務委託を実施し業務を完了したことで、目的は達成されたものと認めることができる。今後とも、保護者及び地域住民等と十分に説明するとともに、新校舎建設工事に着手し計画どおり移転させることで、児童等の安全を確保に努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	新校舎建設工事					工事進捗率				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎建設工事に着手する。 ・移転について、保護者や地域住民の理解を深める。 					<ul style="list-style-type: none"> ・新校舎建設工事の契約を締結し、工事に着手する。 ・継続して学校との協議に努める。 ・保護者や地域住民に対して、移転についての説明会を実施する。 					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	04	学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。	・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・市費による臨時的任用講師の配置。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	4,324	4,192	4,286	4,286	4,180	4,286	0	0
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,309	1,079	1,068	4,309	4,324	4,192	4,286	4,286	4,180	4,286	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	心の教室相談員の配置	916	916	912	児童・教職員の相談にのることでストレスが和らぎ、心にゆとりが持てた。今後はスクールカウンセラー未配置校全校に配置できることが望ましい。
②	学校支援ボランティアの活用	130	130	109	学校内外を支援することで児童・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続する必要がある。
③	臨時的任用講師の配置	3,240	3,240	3,159	複式学級解消のため、市費にて講師を配置した。講師の配置は、毎年見直しが必要である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,286	4,286	4,180	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
DO(実施)	・心の教室相談員を小学校4校に週1～2回(年224時間)配置。 ・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のパトロール、図書の読み聞かせ等で全14校において活用。 ・複式学級解消のため、市費にて講師を配置した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(小)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	04	学校教育支援事業

整理番号
103030101

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレス緩和のための相談員配置数 4校 各1人 ・臨時的任用講師の配置人数 1校 1人 	<ul style="list-style-type: none"> ・4校で約1,210件/年の相談を受け、児童のストレス緩和を支援した。

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	A:有効である	心の教室相談員の人数と配置について見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用等により効率的な事業実施に努めた。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談員の配置やボランティアの活用、また市費による臨時的任用講師の配置により学校における教育環境の整備を図ることができ、児童や教職員の心的・肉体的負担が軽減された。 ・心の教室相談員は、県事業のスクールカウンセラーと合わせてもまだ全校に配置されていないため、配置について見直しの余地がある。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各取組により、児童のストレス緩和及び教員の事務負担軽減に一定の成果を挙げていると認めることができる。引き続き、相談員、学校支援ボランティア等と連携を図り、学校環境の向上に努めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置校数、人数 ・臨時的任用講師の配置校数、人数 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員への相談件数

令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・心の教室相談員の配置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・市費による臨時的任用講師の配置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の負担を軽減する。 ・複式学級を解消する。

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	04	学校教育支援事業

実施計画整理番号	
103030102	
総合戦略 整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 学校の教育環境について、ソフト面において支援を行い、円滑な学校教育を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ボランティアや相談員等を配置、斡旋する。
令和元年度の具体的な目標 ・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の事務負担を軽減する。	令和元年度スケジュール ・適応指導教室の継続的な設置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・大会等への参加支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	2,108	2,108	2,079	2,108	2,108	2,098	2,178	2,198	2,026	2,178	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	132	0	132	0	0	0	0	132	0	0
	一般財源	千円	2,108	2,108	1,947	2,108	1,976	2,098	2,178	2,198	2,026	2,046	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	適応指導教室の運営	1,800	1,820	1,651	不登校児童生徒の学校復帰支援を図り、17名が進学先の決定や学校復帰を果たした。まだ学校復帰していない児童生徒もいるため、今後も継続する必要がある。
②	学校支援ボランティアの活用	28	28	25	学校内外を支援することで生徒・教職員が円滑に学校生活を送れるようになった。今後も同様に継続する必要がある。
③	各種競技大会及びコンクール参加支援	350	350	350	大会等に参加することで一人一人の個を活かし、また、継続することで個の伸長と学習意欲の向上を図った。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,178	2,198	2,026	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・豊田・五郷福祉センターに適応指導教室をおき、計33名の児童生徒が在籍し、17名が進学先の決定や学校復帰を果たした。
- ・学校支援ボランティアを植木の剪定、雑草の除草、登下校のバトロール等に活用。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	01	(中)学校教育支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	04	学校教育支援事業

整理番号
103030102

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室は、昨年度と同様2か所設置した。 ・全中学校へ大会等への参加を支援した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰等の好転がみられた児童生徒数 17人

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	円滑な学校教育を推進するために必要な支援であり、妥当である。	A:有効である	適応指導教室の入級児童生徒数により、指導員の適正人数、配置に見直しの余地がある。	A:効率的である	ボランティアの活用等により効率的な事業実施に努めた。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
C:実現の余地がない	個人情報を取り扱うため難しい。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れる機会を設けている。	B:実現に向けて取り組んでいる	学校支援ボランティアの意見を取り入れながら、問題解決に取り組んでいる。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各学校における教育環境の整備を図ることができ、不登校状態が続いていた児童生徒の適切な学校復帰支援もできた。しかし、児童生徒側のニーズが多様化しており、特別支援の専門知識も必要とされているため、指導員の適正人数の見直しも必要である。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各取組により、生徒のストレス緩和及び教員の負担軽減に一定の成果を挙げていると認めることができる。引き続き、相談員、学校支援ボランティア等と連携を図り、学校環境の向上に努めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の設置数 ・大会等への参加支援校数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰等の好転がみられた児童生徒数

令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室の継続的な設置。 ・学校支援ボランティアの活用。 ・大会等への参加支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のストレスを緩和する。 ・ボランティアの活用促進により、教員の負担を軽減する。

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

実施計画整理番号	
103030301	
総合戦略整理番号	22303

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 児童が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ALTの派遣。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
・全小学校の児童が等しくALTと触れ合える機会を提供する。	・ALTの民間委託により、6名を全小学校に派遣する。 ・ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	11,423	11,422	29,430	22,367	22,367	29,430	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	12,960	12,923	11,418	12,960	11,423	11,422	29,430	22,367	22,367	29,430	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ALTの派遣	29,430	22,367	22,367	6名のALTを全小学校に派遣し、外国語活動の充実を図った。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		29,430	22,367	22,367	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
6名のALTを全小学校に派遣した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(小)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	06	国際教育推進事業

整理番号
103030301

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	ALTを全小学校に派遣した。		各小学校の3年～6年までの授業にALTを配置した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。	A:有効である	ALTによる授業は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。	A:効率的である	民間委託により、コストの削減を図った。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	広報等で周知した。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養い、国際理解教育を推進できた。				
企画政策課での評価とその理由						
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業は、児童の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、全小学校の児童が等しくALTと触れ合える機会を提供することで、国際理解への機会及び変化する社会で活躍する力の創出につながるよう努めていただきたい。					
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	・学校の授業計画にそってALTを派遣		・全小学校の児童がALTと触れ合う機会の提供。	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
・ALTの民間委託により、6名を全小学校に派遣する。 ・ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。		・全小学校の児童が等しくALTと触れ合える機会を提供する。		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	06	国際教育推進事業

実施計画整理番号	
103030302	
総合戦略整理番号	22303

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>生徒が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーション能力の素地を身に付けられるようにする。 生徒に外国の文化、風土、習慣等を自らの肌で感じさせ、国際的視野を広めさせるとともに語学力の向上を図る。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <p>ALTの派遣。 中学生を海外に派遣し、ホームステイによる異文化交流を図る。</p>
<p>令和元年度の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒が海外での学校生活やホームステイを通して外国の文化や習慣に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。 	<p>令和元年度スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供する。 ・生徒が海外での学校生活やホームステイを通して外国の文化や習慣に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	18,955	18,939	23,320	18,612	18,511	23,320	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	20,980	20,980	18,824	21,005	18,955	18,939	23,320	18,612	18,511	23,320	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ALTの派遣	19,620	14,912	14,911	4名のALTを全中学校に派遣し、実践的英語指導を通じコミュニケーション能力の基礎を養った。今後も、ネイティブ・スピーカーの活用等指導体制の充実が必要である。
②	中学生の海外派遣	3,700	3,700	3,600	27名の中学生をオーストラリアに派遣し、学校生活やホームステイを通じて異文化や習慣を学んだ。国際感覚を身に付けた青少年を育成するために、継続する必要がある。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		23,320	18,612	18,511	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> ・4名のALTを全中学校に派遣した。 ・海外研修(オーストラリア)に27名の生徒を派遣した。 	

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030302
1	03	03	03	(中)国際教育推進事業	9	03	02	06	国際教育推進事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ALTを全中学校に派遣した。 全中学校の2・3年生を対象に海外派遣研修を実施した。(年1回、10日間) 					<ul style="list-style-type: none"> ALTを年間を通じて派遣 海外派遣研修人数 27人 				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である		社会の急激な変化の中で、国際化に対応した教育の充実が必要であるため。	A:有効である		ALTによる授業や海外派遣は、コミュニケーションと国際理解の機会を直接与える有効な手段である。	A:効率的である		民間委託により、コストの削減を図った。	
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している		広報等で周知した。	C:実現の余地がない		行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない		行政のみでしか実現できない事業。	
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図り、異文化交流を通じて国際理解を深めることができた。また、海外派遣により国際的な視野を広めることができた。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		生徒の外国語及びコミュニケーション能力の習得に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供することで、国際理解への機会及び変化する社会で活躍する力の創出につながるよう努めていただきたい。また、海外派遣事業についても、異文化に触れ、国際感覚を身に付ける環境を整備するものとする。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> 学校の授業計画にそったALTの派遣 中学2・3年生を対象とした海外派遣研修の日数 					<ul style="list-style-type: none"> 全中学校の生徒がALTと触れ合う機会の提供 海外派遣研修の人数 				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ALTの民間委託により、4名を全中学校に派遣する。 海外派遣で、28名の中学生をオーストラリアに派遣する。 ALTを活用した教員の指導力向上のための研修を実施する。 					<ul style="list-style-type: none"> 全中学校の生徒が等しくALTと触れ合える機会を提供する。 生徒が海外での学校生活やホームステイを通して外国の文化や習慣に触れ、国際感覚を身に付けることができるよう環境を整える。 					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030601	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要									
PLAN (計画)	<table border="1"> <tr> <th>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</th> <th>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</th> </tr> <tr> <td>児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。</td> <td>体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。</td> </tr> <tr> <th>令和元年度の具体的な目標</th> <th>令和元年度スケジュール</th> </tr> <tr> <td>児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。</td> <td>「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。</td> </tr> </table>	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)	児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール	児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)							
児童個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。								
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール								
児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。								

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	2,900	2,848	2,801	2,801	2,591	2,801	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	3,184	3,840	3,632	4,333	2,900	2,848	2,801	2,801	2,591	2,801	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	総合学習の実施	2,801	2,801	2,591	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
②	副読本「わたしたちの茂原」の活用	0	0	0	社会科の学習の中で3・4年生が郷土茂原を知るもっとも有効な資料であり、今後も活用していく。
③	「茂原学」検討委員会の設置	0	0	0	茂原学は出前授業と学校独自の学習を併用して実施している。今後は学習を継続しながら、検討委員会設置に向けて課題の集積に努める。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,801	2,801	2,591	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、児童の「生きる力」を育む教育を推進した。
- ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

PLAN (計画)

DO (実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(小)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	03	総合学習推進事業

整理番号
103030601

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全小学校の全対象児童が受講した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当。	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、児童の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	児童の個々を生かす「生きる力」を育む教育を推進することで、確かな学力の育成に一定の成果があったと認められる。引き続き、より効率的に学習成果があげられるよう努めることとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						
ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全14小学校での事業実施。			
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール				
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		児童が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習推進事業

実施計画整理番号	
103030602	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	生徒個々を生かす教育を推進し、確かな学力を育成する。	体験学習を中心に多様な学習形態の工夫により、興味・関心を生かした教育を推進する。
	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。	「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	1,401	1,334	1,401	1,401	866	1,201	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,401	1,401	1,299	1,401	1,401	1,334	1,401	1,401	866	1,201	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	総合学習の実施	1,401	1,401	866	各学校で総合的な学習の時間を使い、創意工夫を図りながら実施した。
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
	⑩					
事業費計			1,401	1,401	866	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・学習指導要領に基づき各学校で創意工夫を図りながら、生徒の「生きる力」を育む教育を推進した。
- ・「総合的な学習の時間」でより効果的な教育活動が展開できるよう、1校あたり20万円の予算措置を行った。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	(中)総合学習推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	03	総合学習推進事業

整理番号
103030602

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行った。		全中学校の全生徒が受講した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学習指導要領に定められている事業であるため、市が行うことが妥当。	A:有効である	予算措置をすることにより、個々を生かす教育の推進に寄与した。	A:効率的である	消耗品や備品の購入を精査し、コストの削減に努めた。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	B:実現に向けて取り組んでいる	確立していないため、積極的な公開には至っていない。	A:実現している	職場体験・市内見学等で市民の協力を得ている。	A:実現している	市民等から講師を招いて、授業を展開している。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	いずれの取り組みも、生徒の「生きる力」を育む教育の推進という目的に資するものであり、一定の成果があったものと認められる。引き続き、創意工夫を生かした教育活動を実施する必要がある。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	生徒の個々を生かす「生きる力」を育む教育を推進することで、確かな学力の育成に一定の成果があったと認められる。引き続き、より効率的に学習成果があげられるよう努めることとする。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	より効率的に学習成果があげられるよう、各学校が選んだ特定分野に対し、集中的な学習を行う。		全6中学校での事業実施。	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
「総合的な学習の時間」がより効果的に運用されるよう、継続して予算支援を行う。		生徒が問題解決に主体的に取り組める態度と資質を育成する。		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	09	子どもの読書活動推進事業

実施計画整理番号	
103030603	
総合戦略整理番号	22303

事務事業の概要	
PLAN (計画)	<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>学校図書館の整備・充実を図り、児童・生徒の読書活動を推進する。</p>
	<p>活動内容(目的を達成するために何を行うか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 専任の非常勤学校司書を配置する。 学校図書館の蔵書のデータベース化を図る。
	<p>令和元年度の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校司書の配置校を増やし、教職員の読書指導や授業の支援を行う。 請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施し、学校司書を配置できる環境整備を行う。
	<p>令和元年度スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校司書1名を兼務で2小学校に配置する。 蔵書数の多い小学校から順次、請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施する。 25年来使用してきた学校図書館管理システムの故障により、システムを更新し、新たに蔵書のデータベース化を行う。(6月補正対応)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	6,280	5,978	4,237	4,899	4,400	4,240	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	2,798	2,844	2,828	2,798	6,280	5,978	4,237	4,899	4,400	4,240	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	学校司書の配置	3,780	3,880	3,946	4名の学校司書を6小学校に配置し、読書活動や学習活動の支援を行った。今後、学校司書配置校の拡充が望まれる。
②	データベース化の実施	457	562	454	通常の蔵書管理機能だけでなく、豊富な検索機能を有するシステムの導入校の拡充が望まれる。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,237	4,442	4,400	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
<ul style="list-style-type: none"> 4名の非常勤学校司書を6小学校に配置した。(2名が兼務) 学校司書情報交換会、学校図書館・市立図書館連絡会議、ボランティア研修会等開催した。 請求記号ラベルの貼り替えと配架修正を実施した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103030603
1	03	03	06	子どもの読書活動推進事業	9	02	02	09	子どもの読書活動推進事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況					
	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤の学校司書4名を6小学校に週1.5日～3日ずつ配置した(2名が2校ずつ兼務)。 ・2小学校の請求記号ラベル貼り替えと配架修正を行った。 					<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書により学校図書館の環境整備が図られただけでなく、読書指導や授業支援により、児童と教職員の学校図書館を利用する機会が増えた。 ・学校司書を配置するための環境が整った学校数 小学校14校 					
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由					
	A:妥当である	活字離れによる学力の低下が指摘されている中、読書活動の推進が必要であるため。			A:有効である	学習指導要領でも学校図書館の計画的な利用が位置付けられているため。		A:効率的である	業者委託による学校司書の配置やデータベース化よりも安価であるため。		
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している	2018年8月に「第三次茂原市子ども読書活動推進計画」をHPで公表済み。			C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点										
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校司書の配置により、児童・教職員が学校図書館や資料を利活用する機会が増えた。また、蔵書のデータベース化により、学校図書館の適正な管理・運営が可能となった。 <課題>学校司書未配置校及び新学校図書館管理システム未導入校(既存のデータベース化校も含む。)の解消									
	企画政策課での評価とその理由										
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	学校図書館の整備・充実を図ることで、児童・生徒の読書活動の推進されたものと認めることができる。引き続き、学校司書未配置及び学校図書館管理システム未導入校の解消を図るとともに、学校図書館の適正な管理・運営に努めるものとする。									
政策調整会議での評価とその理由											
庁議における方針											

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の配置校数。 ・学校図書館システム導入校の拡充(二宮小・緑ヶ丘小統合校への導入) 					<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書を配置するための環境が整った学校数 				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の配置校の拡充(全小学校へ基本週1日の配置) ・二宮小、緑ヶ丘小の統合に向けた蔵書のデータベース化 					<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館や学校司書の活用について、巡回指導や合同研修会を開催する。 ・4月に学校図書館システムを契約、5月に二宮小、8月に緑ヶ丘小のデータベース化作業を行い、オリエンテーション後9月から緑ヶ丘小の運用を開始する。また、終業式後二宮小の蔵書を緑ヶ丘小に運搬配架して蔵書の最終整備を行う。 					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
	当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	21,578	21,189	26,128	26,299	24,028	26,128	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	20,506	20,497	20,446	20,506	21,578	21,189	26,128	26,299	24,028	26,128	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	特別支援教育支援員の配置	26,299	26,299	24,028	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
⑩						
事業費計			26,299	26,299	24,028	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
支援を要する児童のいる学校に支援員(18名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。	

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103040101
1	03	04	01	(小)特別支援教育支援員活用事業	9	02	02	07	特別支援教育支援員活用事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況									
	支援員を適正に配置した。(18名)					各校1名以上の支援員を配置した。(新治小を除く)									
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由								
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。				A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。				C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。			
	「情報の共有」の状況とその理由					「参加」の状況とその理由					「協働」の状況とその理由				
	A:実現している	教育委員会の点検・評価報告書がHPで公表されている。				C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。				C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点														
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な児童に対し、適切な対応を行うことができた。													
	企画政策課での評価とその理由														
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業により、学校において適正な教育や支援を受けることができたと認められるものである。引き続き、適正に支援員を配置することで学校教育の円滑な運営に努めていただきたい。													
政策調整会議での評価とその理由															
庁議における方針															
ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定									
	支援員の適正配置。(配置数)					各校1名以上の配置。(新治小を除く)									
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール										
支援を要する児童のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。					当該児童が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。										

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040102	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	障害を持つ子どもが、学校において適正な教育や支援を受けられる様にする。	特別支援教育支援員を配置する。
	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
	当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	4,761	4,478	4,592	4,592	3,663	4,592	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	4,749	4,749	2,406	4,749	4,761	4,478	4,592	4,592	3,663	4,592	0

DO (実施)	個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
			計画	予算	決算	
	①	特別支援教育支援員の配置	4,592	4,592	3,663	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
	②					
	③					
	④					
	⑤					
	⑥					
	⑦					
	⑧					
	⑨					
⑩						
事業費計			4,592	4,592	3,663	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する生徒のいる学校に支援員(3名)を配置し、生活上の介助や学習活動のサポートを行った。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(中)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	07	特別支援教育支援員活用事業

整理番号
103040102

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正に配置した。(3名)		3校に支援員を配置した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な生徒に対し、適切な対応を行うことができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業により、学校において適正な教育や支援を受けることができたと認められるものである。引き続き、適正に支援員を配置することで学校教育の円滑な運営に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	支援員の適正配置。(配置数)		支援員の配置数。	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
支援を要する生徒のいる学校に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。		当該生徒が等しく義務教育を受けるための適切な支援を行う。		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業

実施計画整理番号	
103040103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 障害を持つ子どもが、幼稚園において適正な教育や支援を受けられる様に する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 特別支援教育支援員を配置する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
当該園児が等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。	支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	6,486	6,033	5,080	5,080	4,969	5,080	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	5,275	5,714	5,682	5,275	6,486	6,033	5,080	5,080	4,969	5,080	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	特別支援教育支援員の配置	5,080	5,080	4,969	支援員を配置し、障害に応じたサポートを行った。今後も状況を把握しながら配置を検討していく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		5,080	5,080	4,969	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
支援を要する園児のいる幼稚園に支援員(5名)を配置し、生活上の介助等のサポートを行った。

PLAN(計画)

DO(実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	04	01	(幼)特別支援教育支援員活用事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	04	01	08	特別支援教育支援員活用事業

整理番号
103040103

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	支援員を適正に配置した。(5名)		3園に5名の支援員を配置した。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	学校教育の円滑な運営に不可欠であるため、市が主体となることが妥当。	A:有効である	支援員を配置することにより適切な支援ができるため有効。	C:あまり効率的ではない	支援員のニーズが高まっているため、コストの増加が見込まれる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	支援が必要な園児に対し、適切な対応を行うことができた。				
	企画政策課での評価とその理由					
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業により、幼稚園において適正な教育や支援を受けることができたと認められるものである。引き続き、適正に支援員を配置することで幼児期教育の円滑な運営に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						
ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	支援員の適正配置。(配置数)		各園に1名以上の配置。			
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール				
支援を要する園児のいる幼稚園に対して支援員を適正配置し、障害に応じたサポートを行う。		当該園児が等しく幼児期教育を受けるための適切な支援を行う。				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	02	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
令和元年度の具体的な目標 ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。	令和元年度スケジュール ・全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催する。 ・教育研究指定校への支援。(五郷小・東部小) ・校内研究会・研究協議会への支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	1,102	1,102	979	1,115	1,110	979	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,076	1,076	1,044	1,076	1,102	1,102	979	1,115	1,110	979	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	852	852	852	校内研究会・研究協議会の充実のための支援を行った。教員の資質向上のため、継続が必要である。
②	研究指定校の支援	100	236	236	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
③	全国学力状況調査の結果分析	27	27	22	学力状況調査の結果をもとに、問題と解答を分析し、児童の学力向上を図った。継続が必要である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		979	1,115	1,110	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・各学校で校内研修会を実施した。
- ・研究指定校の公開研究会への参加を促進した。
- ・学力状況調査の結果分析会議を年3回開催した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103050101
1	03	05	01	(小)教職員研修支援事業	9	02	02	08	職員研修支援事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会・研究協議会へ補助金を支給した。 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 				<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究等を行い、全14小学校の教職員が参加した。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり、妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な経費である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により資質の向上を図ることができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各取組は教職員の資質・力量の向上に資するものと認められる。今後は、教職員の研修内容に対するニーズ等を調査するなど、より充実した取組の実施に努めていただきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定				令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。 教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。 				<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究等の開催数。 			
令和2年度における具体的な目標				令和2年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> 全国学力状況調査結果分析委員会を3回開催する。 教育研究指定校への支援。(西小) 校内研究会・研究協議会への支援。 				<ul style="list-style-type: none"> 校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。 				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	03	02	08	職員研修支援事業

実施計画整理番号	
103050102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 教職員一人ひとりが自己の資質・力量を磨き上げ、確かな授業力を保てるようにする。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 各学校での校内研修会の実施及び自主グループの育成、県教委主催研修への参加の促進。
令和元年度の具体的な目標 ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 ・学力状況調査の結果分析を授業へ反映させる。	令和元年度スケジュール ・教育研究指定校への支援。(本納中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	765	765	765	765	765	765	765	765	765	689	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	765	765	765	765	765	765	765	765	765	689	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	校内研究会・研究協議会の支援	553	553	553	校内研究会・研究協議会の充実のための支援を行った。教員の資質向上のため、継続が必要である。
②	進路指導の支援	112	112	112	充実した進路指導の実施のための支援を行った。毎年行われるため、継続が必要である。
③	研究指定校の支援	100	100	100	研究の充実のための支援を行った。研究は複数年にわたるため、継続が必要である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		765	765	765	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・各学校で校内研修会を実施した。
- ・進路指導充実のための補助金を支給した。
- ・研究指定校の公開研究会への参加を促進した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	103050102
1	03	05	01	(中)教職員研修支援事業	9	03	02	08	職員研修支援事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会へ補助金を支給した。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援をした。 ・進路指導充実のための支援をした。 				<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究等を行い、全中学校の教職員が参加した。 ・進路指導の充実が図られた。 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	教員の資質向上を図ることは、市の義務であり、妥当。	A:有効である	類似する取り組みはなく、意図の達成に貢献しているため有効。	A:効率的である	成果を維持するための必要な経費である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。	C:実現の余地がない	行政のみでしか実現できない事業。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	教員が日々の教育実践の他、研修等による自己研鑽により資質の向上を図ることができた。						
	企画政策課での評価とその理由							
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各取組は教職員の資質・力量の向上に資するものと認められる。今後は、教職員の研修内容に対するニーズ等を調査するなど、より充実した取組の実施に努めていただきたい。						
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定				令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究会・研究協議会への補助金支給による支援。 ・教育研究指定校を定め、先進的な授業研究の支援。 ・進路指導充実のための支援。 				<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究等の開催数。 ・進路指導の充実。 			
令和2年度における具体的な目標				令和2年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究指定校への支援。(早野中) ・校内研究会・研究協議会への支援。 ・進路指導充実のための支援。 				<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修、授業研究、合同研修会等を充実させる。 				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	新共同調理場建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

実施計画整理番号	
103060101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市内小中学校を対象とした安全安心な学校給食を、学校衛生管理基準に適合した施設から提供するため、新センターを建設する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 既存の共同調理場及び4つの単独調理場を統廃合し、新センターへの集約を図り、学校給食衛生管理基準及びHACCPに基づいた施設を建設する。
令和元年度の具体的な目標 ・建設工事の完了、引き渡し ・9月1日からの給食供用開始 ・単独調理場のプラットフォーム及び配膳室整備 ・総合定例会、運営協議会の開催 ・関係部署との協議 ・建設用地の適切な維持管理	令和元年度スケジュール ・事業者の監理・指導を目的としたモニタリング支援業務委託を継続する。 ・建設工事を完了させ、引き渡しを受ける。 ・9月1日からの供用開始に向け開業準備を実施する。 ・4校の単独調理場を配膳室として整備する。 ・事業者と市において、総合定例会・運営協議会を開催し、円滑な事業の遂行に努める。 ・建設用地の草刈りを年2回実施する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	7,205	6,991	714,717	730,266	728,309	431,249	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	123,647	123,647	455,602	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	245,700	245,700	253,400	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	50,000	0	0
	一般財源	千円	17,235	18,662	18,294	10,333	7,205	6,991	345,370	360,919	19,307	381,249	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市学校給食センター再整備等事業モニタリング支援業務委託	2,160	2,160	2,160	平成30年度にモニタリング支援業務委託契約を締結したため、引き続き、事業者が行う各種業務に対し、適切な助言や提言など様々な業務支援を受けながら事業の促進に努める。
②	配膳室整備工事	65,222	65,222	63,265	単独調理場があった4校(東郷小・五郷小・鶴枝小・茂原小)について、給食を受け入れるための配膳室を整備した。今後は適切な管理に努める。
③	サービス購入料	320,506	662,884	662,884	建設工事が完了したことにより、建設に伴う費用の一部を一括で支払った。(交付金及び起債額)今後は分割で15年間支払っていく。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		387,888	730,266	728,309	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・建物の建設工事が完了したため、6月28日に引き渡しを受けた。
- ・引き渡し後、2ヶ月間の開業準備を実施した。
- ・9月より新しい給食センターから市内の全小中学校へ給食の提供を開始した。
- ・平成30年度にモニタリング支援業務委託契約を締結したため、引き続き、事業者が行う設計・建設・運営・維持管理などの各種業務に対し、専門的で客観的な立場からの適切な助言や提言、必要な書類の作成など、様々な業務支援を受けながら事業の促進に努めた。
- ・総合定例会を全3回(4月～6月、毎月1回)、維持管理・運営協議会を全12回(4月～3月、毎月1回)実施した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	03	06	01	新共同調理場建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	05	01	共同調理場建設事業

整理番号
103060101

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況
給食提供数 最大6,500食	適合施設の完成 環境衛生基準対応率 100%

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	食育の推進を図るとともに、栄養バランスのとれた安全・安心でおいしい学校給食を提供し、子ども達の健全な育成を図る事業である。	A:有効である	基本計画に基づきPFI手法を用いて整備をしており、学校給食衛生管理基準に適合する施設を早期に建設し、将来にわたり児童生徒に、安全・安心でおいしい学校給食を提供することが確実である。	A:効率的である	基本計画に基づきPFI手法を用いて整備しており、従来方式に比べて市の財政負担額が削減することが見込まれる。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	ホームページでの公表 広報	A:実現している	地元自治会や関係者と協議を実施した。	A:実現している	地元自治会や関係者と協議を実施した。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	茂原市学校給食基本計画に基づき、茂原市学校給食センター再整備等事業をPFI手法にて実施している。令和元年度は建設工事を完了させ、また、4校の単独調理場を配膳室に整備し、令和元年9月2日から安全・安心で温かく美味しい給食を提供することが出来た。今後はPFI事業の期間である令和15年8月まで適切な運営・維持管理に努める必要がある。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	建物の建設工事が完了し市内全小中学校に給食の提供を開始したことから、当初の目的を達成したと認められる。今後は、適切な運営・維持管理に努めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
—	—

令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・新給食センターの適切な運営・維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の監理・指導を目的としたモニタリング支援業務委託を継続する。 ・事業者と市において、円滑な事業の遂行に努める。

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	公民館学級運営費

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	02	07	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費

実施計画整理番号	
104020101	
総合戦略 整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	市民を対象(市内在勤を含む)に、各種教室を開催し、市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。	各公民館(中央、本納、鶴枝)では主催教室として女性、成人、少年を対象に23教室を平日、夜間及び土曜に開催する。 (講師謝礼;市内2,500円/時、郡内3,000円/時、郡外3,800円/時)
	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の事業拡大を含めた主催教室の向上 		<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年3月: 予算確定 ・令和元年4月: 広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集 ・令和元年5月: 随時開催可能な講座の企画

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	1,047	983	1,075	1,075	850	1,047	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,167	1,094	1,018	1,190	1,047	983	1,075	1,075	850	1,047	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	中央公民館主催教室5教室の実施	454	454	260	開催数: 31回・延べ参加人数: 483人・出席率: 85.49% 実施した主催教室は5教室である。
②	本納公民館主催教室8教室の実施	261	261	244	開催数: 36回・延べ参加人数: 461人・出席率: 85.37% 実施した主催教室は8教室である。
③	鶴枝公民館主催教室11教室の実施	360	360	346	開催数: 54回・延べ参加人数: 566人・出席率: 84.10% 実施した主催教室は11教室である。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
・主催教室 開催					
⑨					
⑩					
事業費計		1,075	1,075	850	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
<ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館 開催数: 31回・延べ参加人数: 483人・出席率: 85.49% 実施した主催教室は5教室。 ・本納公民館 開催数: 36回・延べ参加人数: 461人・出席率: 85.37% 実施した主催教室は8教室。 ・鶴枝公民館 開催数: 54回・延べ参加人数: 566人・出席率: 84.10% 実施した主催教室は11教室。 	

PLAN (計画)

DO (実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020101
1	04	02	01	公民館学級運営費	9	05	02	07	中央公民館学級運営費 本納公民館学級運営費 鶴枝公民館学級運営費	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	・災害(令和1年10月25日)の影響もあって、活動指標には到っていない。				・災害の結果、休館及び開催の延期もあり、開催数の増加はなかった。 ・教室の内容については別に開催日を設定し、充実をはかったが、自主グループの発足まで到っていない。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	B:ほぼ妥当である	地域における生涯学習の拠点施設として、各種の講座や事業を実施し、学びや交流の機会を提供した。	B:やや有効である	令和元年度は、中央公民館については青少年の教室が災害によって、開催できず、次年度に新しい企画として、青少年教育に協力したい。	B:やや効率的である	市民のニーズと社会的課題を考慮した多様なジャンルの主催教室を開催し、多くの市民に学習機会を提供した。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	B:実現に向けて取り組んでいる	ウェブサイトや広報等での周知、各公民館で情報を提示するなど情報共有しているが、他の周知方法も検討する。	B:実現に向けて取り組んでいる	高齢者が多く、参加者数が減少しているが、青少年を含む新規受講者の獲得に向けて検討する。	A:実現している	地域住民の学習ニーズを積極的に企画、運営に反映させるため、公民館運営審議会を開催している。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	災害・コロナウイルス感染防止など問題が生じるが、なるべく新規主催教室の開催を実現させ、主催教室の内容、周知方法の検討等、新規受講者の獲得に努める必要がある。							
企画政策課での評価とその理由								
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	社会的要因により、予定していた青少年の教室が開催できず、成果が挙げられなかったものの次年度開催に向けて進めるものとする。また一方で、地域住民の学習ニーズを把握することで多様な学習機会の提供に努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定				令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	・主催教室開催数 ・教室等の情報発信件数 ・公民館運営審議会の開催回数				・主催教室参加者数(累計) ・自主グループ数			
令和2年度における具体的な目標				令和2年度における事務事業スケジュール				
・安全に有意義な主催教室が開催できるように検討する。				・令和2年4月:広報・ホームページ・ポスター等で受講生募集 ・令和2年9月:コロナウイルス感染防止の為、9月より講座を開始予定。				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	01	文化会館主催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	19	03	文化会館主催事業

実施計画整理番号	
104020102	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
市民の文化活動を援助し、教養の向上を図るための講座や事業を充実させる。また、外房地区に映画館のない現状のなか、市民の身近な施設で上質な映画を定期的に提供することにより、文化活動の拠点となるようにする。	・多様なニーズにあった主催教室を実施する。 ・主催事業として、上質な映画や当地域の文化歴史を伝える映画を、市民の協力を得て有料・無料で定期的に上映する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
①主催教室・・・新規教室1教室以上、参加者の満足度向上。 ②映画会・・・無料映画会の参加者数の増加、有料映画会の目標参加者数450人以上。	①主催教室・・・公式ワナゲ教室(6回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)大多喜ガス共催料理教室(1回)うたごえ教室(9回)茶道教室(9回)フラダンス教室(8回)ノートパソコン教室(4回)子ども工作教室(2回)子どもアレンジフラワー教室(2回)ゴスペル教室(3回)手作りハーバリウム教室(1回) ②映画会・・・大画面でみる映画会(3日延べ6回)名作映画を大画面で！(優秀映画鑑賞推進事業、2日間延べ4回)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,817	1,558	1,479	692	745	637	738	738	712	738	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	220	220	200	220	215	200	215	215	181	215	0	0
	一般財源	千円	1,597	1,338	1,279	472	530	437	523	523	531	523	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	主催事業の充実	409	409	391	主催教室を予定通り実施。今後も継続。
②	映画上映会の実施	329	329	321	映画会を実施。今後も継続。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		738	738	712	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
・主催教室は12教室延べ52回実施、参加者1,178名。 ・映画会 「大画面でみる映画会」(無料)は2回延べ4回実施、来場者389名。(3月実施予定だった映画会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。) 「名作映画を大画面で！」(優秀映画鑑賞推進事業、有料)は2日間延べ4回実施、来場者583名。

PLAN (計画)

DO (実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	104020102
1	04	02	01	文化会館主催事業	2	01	19	03	文化会館主催事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	①主催教室は12教室(うち新規3教室)延べ52回実施し、概ね目標を達成できた。 ②無料映画会は年2回延べ4回実施、有料映画会を2日間延べ4回実施し、目標を達成できた。(3月に予定していた無料映画会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。)					①主催教室 延べ参加者数1,178名 参加した教室に「大変満足・満足」と答えた割合 96.02% ②無料映画会 来場者389名「大変満足・満足」と答えた割合 92.25% 有料映画会 来場者583名「大変満足・満足」と答えた割合 86.71%				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である 低料金で様々な活動の機会を提供する主催教室や、映画鑑賞の場を提供する映画会は、自治体を実施すべき文化事業である。		A:有効である 主催教室への参加をきっかけに自己啓発のため自主活動や民間の教室に参加する方もいる。映画会は毎回好評を得ており、文化・教養の向上のために有効な事業である。			A:効率的である 必要最低限の費用で、質の高い事業を実施できている。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している 広報、民間情報誌、新聞などに情報を載せ、ポスターを近隣自治体に配布するなど、広く情報が届くようにしている。		A:実現している 休日に主催事業を開催するなど、参加者層の拡大を図っている。			A:実現している 有料映画会を市民協働で実施している。				
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		①主催教室は、フラダンス教室や人気の高いうたごえ教室、料理教室、ノートパソコン教室、子どもアレンジフラワー教室など様々な教室を実施した。また、新規に公式ワナゲ教室や茶道教室、手作りハーバリウム教室を実施し、充実した事業となった。 ②無料映画会は年2回延べ4回実施、参加者389名となった。3月実施予定だった映画会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。有料映画会は、実行委員会と市民協働により実施できた。映画は作品により参加者層が変動することや、無料で上映できる映画に限られていることから、上質な作品選び、集客力を考慮した作品選びが重要であり課題である。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		新規主催教室数、主催教室延べ開催回数ともに増加しており、映画会においても満足度をみると概ね成果を挙げたと認められる。引き続き、市民の文化活動及び教養の向上に向けて主催教室等の充実を図るとともに、市民ニーズの把握に努めることで、より一層の市民参加を促進していただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

A C T (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	・主催教室数及び延べ参加者数 ・映画会上映回数及び来場者数					・主催教室参加者へのアンケートで「大変満足・満足」と答えた割合 ・映画会来場者へのアンケートで「大変満足・満足」と答えた割合				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
・主催教室 新規教室1教室以上、参加者の満足度向上。 ・映画会 来場者数の増加、優秀映画鑑賞会の目標来場者数450人以上。					・主催教室 公式ワナゲ教室(8回)太巻き寿司教室(5回)男の料理教室(5回)うたごえ教室(10回)大正琴教室(5回)クラフトバンド教室(6回)ノートパソコン教室(5回)子どもアレンジフラワー教室(2回)子どもクラフトバンド教室(1回) ・映画会 「大画面でみる映画会」(年3回延べ6回)、「名作映画を大画面で! (優秀映画鑑賞推進事業)」(年2日間延べ4回)					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育関係団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

実施計画整理番号	
104020201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
PLAN (計画)	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)
	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	令和元年度の具体的な目標
	令和元年度スケジュール
社会教育関係団体の活動を支援し、活動を活性化させる。	
各団体に補助金を交付するとともに、リーダー研修等を開催する。	
・研修会、講習会の開催による人材の養成。 ・各種団体の会員数の減少を抑制する。	
・各団体への補助金の交付。 ①PTA連合会(51千円) ②ボーイスカウト(24千円) ③子ども会育成連合会(580千円) ・指導者の育成を図るための研修会の開催。	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	888	888	863	888	888	863	679	679	665	679	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	888	888	863	888	888	863	679	679	665	679	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	PTA連合会の活動支援	56	56	54	茂原市PTA連合会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
②	ボーイスカウト活動支援	24	24	24	ボーイスカウト茂原第2団に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
③	子ども会育成支援	599	599	587	茂原市子ども会育成連合会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		679	679	665	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
・各団体に補助金を交付し、活動を支援した。 ①PTA連合会 51千円(講演会、研修等) ②ボーイスカウト茂原第2団 24千円(ハイキング、奉仕活動等) ③子ども会育成連合会 580千円(キャンプ研修、わくわく研修会、新年交歓会等) ・子ども会育成連合会では、育成者同士の意見交換会を2回開催し、子ども会運営に関する問題点と解決策について共有する機会を設けた。	

DO
(実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	04	02	02	社会教育団体支援事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	07	社会教育関係団体助成事業

整理番号
104020201

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 補助金の交付件数 3件 育成者の意見交換会 2回 		<ul style="list-style-type: none"> 活動が活性化された団体数 3団体 育成者の意見交換会の参加人数 32人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	青少年教育の充実を図るために各団体に補助金を交付し、活動を支援することは妥当である。	A:有効である	青少年教育の充実等、各団体の目的達成のために補助金が有効活用されている。	A:効率的である	団体の運営資金の一部を補助しており、効率的である。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	補助金交付要綱をウェブページで公表している。	A:実現している	補助金交付要望書により要望を取り入れている。	A:実現している	団体との情報共有や適切な役割分担を行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		団体運営費の補助による活動支援を行った。また、子ども会については会員減少や役員のなり手不足等の課題を抱えていることから、育成者同士の意見交換会を開催して会員数の減少等の問題点と解決策について共有する機会を設けた他、役員が指導者向けの講習会へ積極的に参加するなど、人材育成と組織強化を図った。しかし、そのような対策を取ってはいるものの、社会環境の変化等の構造的な問題によって、会員数の減少に歯止めがかからなくなっている。			
	企画政策課での評価とその理由					
	B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		社会教育関係団体の活動活性化に資する事業と認めることができる。今後とも、各団体の人材育成及び組織強化のための支援を実施するとともに、各団体の意見・要望を共有する機会の促進に、より一層努めていただきたい。			
政策調整会議での評価とその理由						
(この欄は斜線が入ります)						
庁議における方針						
(この欄は斜線が入ります)						

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> 活動を支援した団体数 講習会、意見交換会等の開催回数 		<ul style="list-style-type: none"> 意見交換会等の参加人数 子ども会育成連合会の活動回数 	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
<ul style="list-style-type: none"> 運営費の補助による団体の活動支援。 役員の研修会や講習会への積極的な参加による人材育成。 団体を運営する当事者が抱える問題解決のサポート。 		<ul style="list-style-type: none"> 各団体への補助金の交付 <ul style="list-style-type: none"> ①PTA連合会(51千円) ②ボーイスカウト茂原第2団(24千円) ③子ども会育成連合会(800千円) 役員の研修会や講習会への積極的な参加 団体を運営する当事者同士の意見交換会等の開催 		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

実施計画整理番号	
105020101	
総合戦略 整理番号	32202

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
市民の健康づくり・体力づくりを推進し、健康で明るい活力に満ちた生活の実現を目指す。	基本的な運動技術の習得を目標に各種スポーツ教室を開催する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
新たな教室の企画、教室の受付方法等	ヨーガ教室 5～7月・10～12月 計16回 太極拳教室 5～7月・10～11月 計13回 美と健康づくり体操教室 5～7月・10～12月 計16回 エアロビクス教室 10～12月 計8回 パラスポーツ教室 4～3月 計10回 Jr.バレーボール教室 12/15 健康トレーニング教室 11月 計5回

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	945	945	881	945	964	852	874	874	749	452	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	945	945	881	945	964	852	874	874	749	452	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	各種スポーツ教室の開催	874	874	749	初心者向けの教室を実施し、スポーツをするきっかけ作りが図れた。今後は、若い世代でも参加できる教室を実施するため、時間帯や世代に見合った新たな教室の内容を検討する。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		874	874	749	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
ヨーガ教室 5～7月・10～12月 計16回 受講者数217人(30年度202人) 太極拳教室 5～7月・10～12月 計13回 受講者数60人(30年度100人) 美と健康づくり体操教室 5～7月・10～12月 計16回 受講者数38人(30年度106人) パラスポーツ教室 4～3月 計10回 受講者数60人(30年度60人) エアロビクスダンス教室 10月～12月 計8回 受講者数 16人(30年度30人) Jr.バレーボール教室 12/15 受講者数 142人(30年度150人) 健康トレーニング教室 11月 計5回 受講者数12人(30年度実施無し)	

PLAN (計画)

DO (実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ教室事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	02	スポーツ教室事業

整理番号
105020101

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況 各種スポーツ教室を7教室開催した。	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況 7教室545人が参加した。	
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 市民がスポーツを行うきっかけづくりとして、自治体が事業を実施することは妥当である。	A:有効である 定員を超える応募がある教室もあり、教室参加をきっかけにスポーツを始める市民もいるため有効である。	A:効率的である 受益者負担の立場から傷害保険は受益者が負担している。
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
B:実現に向けて取り組んでいる 広報、ウェブサイトで市民に教室開催の情報を提供している。	B:実現に向けて取り組んでいる 障害者や、夜間しか参加できない市民に対応するための教室を開催した。	B:実現に向けて取り組んでいる 教室参加者から要望等の聞き取りを行っている。
所管による評価とその理由、課題・問題点		
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割～7割)	スポーツを行うきっかけづくりのため、初心者を優先し教室に参加させ、障害者が参加できる教室や夜間教室の開催を行った。今後は新たな教室の企画を考える必要がある。	
企画政策課での評価とその理由		
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割～7割)	スポーツ教室、参加者ともに増加しており、一定の成果を挙げたと認められる。今後とも、市民のニーズに合わせた事業を展開するとともに、より一層の周知を図ることにより、市民の健康づくり・体力づくりの推進に努めていただきたい。	
政策調整会議での評価とその理由		
(Blank area for policy adjustment meeting evaluation)		
庁議における方針		
(Blank area for council policy)		

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定 ・パラスポーツ教室の開催数 ・教室等の周知件数	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定 パラスポーツ教室の参加者数
令和2年度における具体的な目標 市民体育館大規模改修工事による休館に伴い、会場を代替しての実施が可能なパラスポーツ教室のみを実施する。障害者スポーツの推進に努めるため、障害者スポーツの魅力を伝え、健常者と共にスポーツを楽しむことができる機会を構築する。	令和2年度における事務事業スケジュール 大規模改修工事により総合市民センターに会場を代替しての実施 パラスポーツ教室 4～3月 計10回

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	05	02	01	スポーツ振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	06	01	03	スポーツ振興事業

実施計画整理番号	
105020102	
総合戦略 整理番号	32203 32204

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市民に、スポーツに触れ合う機会を数多く提供し、市民の健康増進を図り、スポーツを通じて、健康で活気あるまちづくりを推進する。また茂原市体育協会と茂原市スポーツ少年団の組織強化を図り、競技スポーツと青少年の健全育成を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) タッチバレーボール大会・ファミリースポーツまつり・スポレク祭等を開催する。体育協会と共催で市民体育祭を開催する。体育協会とスポーツ少年団に補助金を交付し支援する。総合的な、スポーツの振興に関する事項を審議するため、スポーツ推進審議会を開催する。総合型地域スポーツクラブ検討委員会を設置する。大相撲茂原場所の開催をする。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、より多くの市民がスポーツを行う環境をつくるため、小学校区を基準とした地区スポーツ活動事業を行う。併せて、緑ヶ丘地区に設立した総合型地域スポーツクラブの支援も行っていく。また、障害者スポーツの推進も行い、障害者スポーツの教室や体験会を開催する。	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	8,731	7,731	7,694	7,880	7,091	6,652	0	0
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	120	120	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,277	10,934	10,364	7,927	8,731	7,731	7,574	7,760	7,091	6,652	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	体育協会と共催し市民体育祭の開催	1,144	1,144	1,010	体育協会と共催し、23競技を実施。現状維持。
②	各種スポーツイベントの開催	2,625	2,625	2,052	スポーツに取り組むきっかけ作りを目的としたイベントを開催。今後も継続する。
③	体育協会活動とスポーツ少年団活動の支援	2,257	2,257	2,257	体育協会とスポーツ少年団へ活動補助金を交付し、各組織の自主的活動への支援をした。今後も継続する。
④	スポーツ推進審議会の開催	174	174	145	茂原市のスポーツ推進の現状を審議し、今後の具体的な取組み事項について審議した。今後も継続する。
⑤	トップアスリートによる講演会	0	0	0	
⑥	市民マラソン大会の検討	0	0	0	
⑦	スポーツ掲示板啓発	10	10	0	ウェブページやfacebookでのスポーツ情報発信に併せて、市役所ロビーおよび市民体育館にて来庁者への情報発信を実施した。
⑧	鍛山部屋ふれあい相撲・(仮称)大相撲茂原場所の開催	950	950	950	大相撲力士を招いて、公開稽古や市民と力士との交流を行い約1,000人の来場があった。
⑨	スポーツ推進委員活動	720	720	677	市発祥のスポーツ、タッチバレーボールの普及をはじめ、スポーツ推進事業の実働を行った。今後も継続する。
⑩					
事業費計		7,880	7,880	7,091	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)	
①	市民スポーツの推進に関するイベントの企画・運営を協議するため、スポーツ推進委員会議を7回開催した。
②	市民体育祭を23競技で開催した。 8月19日～11月30日 参加人数 3,268人。
③	各種スポーツ大会の開催。 みんなでラジオ体操会&ファミリースポーツまつり・もばらスポーツフェスティバル・茂原市スポレク祭・エンジョイスports教室等
④	スポーツの推進に関する事項について調査・審議するため、スポーツ推進審議会を3回開催した。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	105020102
1	05	02	01	スポーツ振興事業	9	06	01	03	スポーツ振興事業	

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況 市民体育祭、ファミリースポーツまつり、エンジョイスports教室等を開催した。また、市内小学校の学校開放を活用した地区スポーツ活動(タッチバレーボール教室)を開催した。年度後半においては、水害や新型コロナウイルス感染症拡大防止対応などにより事業中止となったが、概ね成果を得たものと考えている。	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況 各種事業に述べ約7,300人が参加した。
---	--

妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	スポーツの推進には単に楽しむ機会の提供をするだけでなく、スポーツを通じて市民の健康増進に繋がることが自治体の役割として必要である。	A:有効である	市民の健康増進のきっかけづくりとして、各種スポーツ事業を実施することは有効である。	A:効率的である	各種事業必要最小限の費用により事業は実施されている。

「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	広報、自治会回覧、小中学校配布、ウェブサイトでの情報発信に加え、フェイスブックを活用してタイムリーな情報発信に取り組む。	A:実現している	各種事業において老若男女が参加できる状況を提供している。	A:実現している	各種事業の運営においては、専門知識を持った団体と協働し、スポーツ事業を実施した。

C H E C K (評 価)	所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) スポーツ推進計画に基づき、着実に事業の達成が図られている。総合型地域スポーツクラブの緑ヶ丘スポーツクラブに次ぐクラブ設立に向けて、小学校に学校開放を利用した「地区スポーツ活動」を開催しているが、設立、そして運営に必要な、人材の育成が必要となる。
---	--

企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 計画的に取組を実施しており、「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、一定の成果を挙げていると認められる。引き続き、市民のスポーツに触れ合う機会の提供及び市民の健康増進を図るため、より一層のタイムリーな情報発信に努めるとともに、新たな総合型地域スポーツクラブの設立を進めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由 (Blank)

庁議における方針 (Blank)

A C T (改 善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定 スポーツ推進に係る事業の開催数	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定 事業への参加人数
---------------------------------	--	--

令和元年度における具体的な目標 スポーツ推進計画に掲げる「市民ひとり1スポーツ」の実現に向けて、より多くの市民がスポーツを行う環境をつくるため、小学校区を基準とした地区スポーツ活動事業を行う。緑ヶ丘スポーツクラブに次ぐ、総合型地域スポーツクラブ設立に向けて、「地区スポーツ活動事業」を行うことにより、各地区の情報を得て、設立に必要なとされる人材の育成を図っていく。	令和元年度における事務事業スケジュール 協働するスポーツ推進委員等、他団体との連携をとるため、定期的な意見交換の場を設け、お互いの役割を明確にして、取り組んでいく。また、今後のスポーツ事業に必要な人材を発掘するため、スポーツボランティア制度を設立する。
--	--

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	01	01	新市民会館建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業

実施計画整理番号	
106010101	
総合戦略整理番号	0

PLAN (計画)	事務事業の概要	
	事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
	昭和43年に開館した市民会館は、施設や設備の老朽化が進んでおり、市民の多様化したニーズへの対応が困難となっている。このため、茂原市総合計画に基づき、新文化会館(複合施設)建設の検討を行う。	建設の必要性を含めて、基本的な機能、役割等について検討し、市民や専門家等の幅広い意見を集約の上、基本構想及び民間活力の導入可能性調査及びその後の計画を策定する必要がある。
	令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
<ul style="list-style-type: none"> 整備手法の検討 建設候補地の建設における各種課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> 庁内検討委員会 (仮称)茂原市市民会館建設・運営に関するサウンディング調査 市議会特別委員会 茂原市PPP/PFI導入基本方針に基づく庁内検討会、庁議 	

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	12,491	12,387	66	66	5	6,545	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	10,228	10,228	10,184	11,491	12,491	12,387	66	66	5	6,545	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	設計者選定支援等業務	66	66	5	災害で建設候補地が浸水したことにより、改めて検討する必要が生じた。新型コロナウイルス感染症の拡大もあり、計画の見直しはついて
②	PFI導入可能性調査	0	0	0	
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		66	66	5	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
整備手法について従来方式とすることを決定した。

DO (実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	01	01	新市民会館建設事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	07	新市民会館建設検討事業

整理番号
106010101

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況 庁内検討委員会2回、市議会特別委員会2回、市議会全員協議会2回、政策調整会議1回、庁議1回	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況 整備手法の決定	
妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 文化芸術によって人々に安らぎを与え、創造力や表現力を引き出す拠点として、市民生活を豊かにする様々な機会と場を提供するため。	A:有効である 基本構想、基本計画を踏まえ、整備手法を決定することができた。	A:効率的である 昨年度改訂した茂原市PPP/PFI導入基本指針に基づき、協議を進めた。
「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
A:実現している 広く一般に周知するとともに、整備手法を決定するにあたり、民間事業者等とのサウンディングを実施した。	B:実現に向けて取り組んでいる 整備手法の決定については専門家の知識が必要であるが、建設候補地が深刻な水害に遭ったことにより、再び多くの意見を必要とする。	B:実現に向けて取り組んでいる 整備手法の決定については専門家の知識が必要であるが、建設候補地が深刻な水害に遭ったことにより、再び多くの意見を必要とする。
所管による評価とその理由、課題・問題点		
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	基本構想、基本計画を踏まえ、整備手法を決定することができた。	
企画政策課での評価とその理由		
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	整備手法を決定したことにより、目標は達成されたと認められる。今後は、事業の方向性について検討を進めるものとする。	
政策調整会議での評価とその理由		
庁議における方針		

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定 ・庁内検討委員会の開催 ・建設候補地の協議 ・次期総合計画における建設の位置づけ	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定 ・事業の方向性
令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
・事業の方向性 ・次期総合計画における建設の位置づけ	・課内検討 ・庁内検討委員会

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

実施計画整理番号	
106020101	
総合戦略 整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
生涯学習活動、文化活動の成果の発表の場を提供し、市民の文化意識の向上を図る。	茂原市文化協会との共催により、茂原市文化祭を開催する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
会場確保の問題解決と出品・出演者数の増加を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。	第68回茂原市文化祭(10月30日～12月11日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。 実行委員会を年3回開催。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	477	477	420	477	479	428	452	452	354	452	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	477	477	420	477	479	428	452	452	354	452	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	茂原市文化祭の開催	452	452	354	10月25日の豪雨災害により中止したが、今後も市民の文化活動の発表の場として実施していく。
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		452	452	354	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
第68回茂原市文化祭(10月30日～12月11日)に向けて文化祭実行委員会を定期的(6・9月)に開催していたが、10月25日の豪雨災害により中止する。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	文化祭開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	09	文化祭開催事業

整理番号
106020101

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況		令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	10月25日の豪雨災害により中止する。		文化祭開催直前で中止したが、開催に向けての準備や中止を決定した後の周知は遅滞なく行った。			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
	A:妥当である	教育委員会と文化協会が共催することで、市民の芸術文化活動が推進できる。	A:有効である	市民の芸術文化活動の発表の場を提供することで活動の推進を図る。	A:効率的である	各団体の発表の機会を一度に設けることで入場者の増加を期待できる。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
	A:実現している	市広報、市ホームページ、自治会回覧を通じて参加募集、日程等の情報を提供している。	A:実現している	茂原市文化祭実行委員会を組織し、参加者や参加団体の要望の機会を提供している。	A:実現している	教育委員会と文化協会等の文化団体により茂原市文化祭実行委員会を組織し、市民と協働による事業運営を行っている。
	所管による評価とその理由、課題・問題点					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		文化祭開催直前で中止したが、各団体と会場の割り振りや日程について協議しながら進めることで、効率的かつ市民が来場しやすい事業を計画した。今後も限られた施設規模のなかで効率的な事業運営が必要である。				
企画政策課での評価とその理由						
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		災害により開催は中止となったものの、実行委員会を予定どおりに開催しており、計画的に事業を実施できたものと判断できる。引き続き、生涯学習活動及び文化活動の成果の発表の場を提供し、市民の文化意識向上を図るとともに、関係団体との連携により効率的な事業実施に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由						
(斜線表示)						
庁議における方針						
(斜線表示)						

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定		令和2年度成果指標(アウトカム)の設定	
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭の開催日数 ・開催会場数 ・文化祭の周知件数 		<ul style="list-style-type: none"> ・来場者数 ・出演団体数、出演者数、出品者数 	
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール		
会場確保の問題解決と出品・出演者数の増減を念頭に、市民の学習の機会の確保を充実させる。		第69回茂原市文化祭(10月31日～11月25日)美術館・郷土資料館ほか10会場にて開催。実行委員会を年3回開催。		

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	美術館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	01	美術館展示事業

実施計画整理番号	
106020102	
総合戦略整理番号	32103

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
広く市民に芸術文化に触れ、鑑賞できる機会を提供し、地域の芸術文化事業の充実を図るとともに、その振興に資する。	地域ゆかりの作家の作品について周知を図るため、美術収藏品展の開催を基本としながら、令和元年度には、当館の目玉となる林功作品を生かした企画展を開催する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
年間展示作品数は、企画展、収藏品展等合わせて、200点以上を目標とする。 平成30年度からの継続展覧会を含め、年7回の収藏品展、茂原市内の小中学校所蔵美術品展を開催、A3ポスターを作成し、PRに努める。 企画展においては、ポスター・チラシ作成の上、新聞等への広告掲載、チラシの自治会回覧等のPRに努め、更に図録を作成、販売する。 学芸員による展示解説会を年3回開催。	収藏品展(通年)、茂原市内の小中学校所蔵美術品展(6月～9月)企画展(9月～10月)を開催する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	155	155	151	80	569	569	3,031	2,931	2,912	5	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	420	420	237	0	0	0
	一般財源	千円	155	155	151	80	569	569	2,611	2,511	2,675	5	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術収藏品展の開催	5	6	6	収藏品展の開催(年7回実施)
②	企画展の開催	3,026	2,925	2,906	企画展の開催
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		3,031	2,931	2,912	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

収藏品展の開催(年7回)
 茂原市内小中学校所蔵美術品展の開催(6/22～9/8)
 企画展の開催(9/13～10/7)
 学芸員による展示解説会の開催(年7回)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020102
1	06	02	01	美術館展示事業	9	05	05	01	美術館展示事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間展示作品数 7回 501点 ・学芸員による展示解説会の実施回数 7回 ・情報提供(PR)先箇所数 4社 					<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展、茂原市内の小中学校所蔵美術品展、企画展の各会期中における入館者数 32,414人(目標28,000人以上) ・企画展の観覧料収入 170,100円(目標240,000円)、図録の販売収入 66,500円(目標180,000円) ・学芸員による展示解説会の参加者数 102人(目標40人) 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である 茂原市立美術館や市内小中学校の美術作品、及び他館所蔵の作品を展示し、広く市民に芸術文化に触れる機会を提供した。		A:有効である 唯一無二の美術品の展示であるため類似事業はない。企画展の開催は、貴重な機会の提供だった。			A:効率的である 必要最小限の経費で業務を完了した。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している ウェブサイトでの公表、広報もばらや地域情報紙、ポスター・チラシの作成・配布、企画展については新聞広告も実施した。		A:実現している 市民美術展や共催団体展による展示の実施			A:実現している 共催団体展による展示の実施				
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		入館者数、年間展示数は、目標を上回っており、収蔵品展、茂原市内の小中学校所蔵美術品展、企画展の開催など、必要最小限の経費で意義深い事業を行った。しかしながら、台風や大雨の影響により、企画展の観覧料・図録の収入は当初見込みを下回った。共催団体の展示も、当該団体との協働によりすべて開催し、展示の多様性を確保した。							
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		社会的要因により来館者数は減少したものの、地域の芸術文化事業の充実に一定の成果があったと認められる。引き続き、企画展、市民美術展等の充実や情報提供の拡充により入場者の増加を図ることで、市民が芸術文化に触れる機会の提供に努めていただきたい。							
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展回数 ・年間展示作品数 ・情報提供箇所数 					収蔵品展期間中における入館者数 20,000人以上				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
年8回の収蔵品展を開催し、PRに努める。年間展示作品数は、収蔵品展等あわせて200点以上を目標とする。					収蔵品展(通年)					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	01	芸術文化講座事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	03	芸術文化講座事業

実施計画整理番号	
106020103	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 広く市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習できる機会を提供する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 美術実技講座、郷土文化講座、歴史セミナー、古文書講座などを開催する。
令和元年度の具体的な目標 美術実技講座については、小学生向け1回、一般向け4回開催を目標とする。 郷土文化講座については、歴史セミナー3回、古文書講座9回開催を目標とする。	令和元年度スケジュール 美術実技講座の小学生講座は夏休み期間中の実施、一般向けは土日、休日の開催を基本とする。 郷土文化講座(一般向け)についても、土日開催を基本とする。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	100	100	100	98	98	73	98	98	83	98	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	100	100	100	98	98	73	98	98	83	98	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	美術実技講座の開催	53	53	38	全4回のうち3回実施。
②	古文書講座の開催	30	35	35	全9回のうち8回実施。
③	歴史セミナーの開催	15	10	10	全3回のうち2回実施。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		98	98	83	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

美術実技講座の開催(全3回)。うち小学生向け(1回実施)参加人数11人。大人向け(2回実施)参加人数①5人②13人
 古文書講座の開催(全8回)。参加人数①26人②27人③25人④22人⑤22人⑥27人⑦26人⑧22人
 歴史セミナーの開催(全2回)。参加人数①14人②28人

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020103
1	06	02	01	芸術文化講座事業	9	05	05	03	芸術文化講座事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術実技講座実施回数 全3回(小学生向け1回、一般向け2回) ・古文書講座実施回数 8回 ・歴史セミナー実施回数 2回 				美術実技講座 小学生向け 定員12人。参加者11人(91.7%) 一般向け 定員12人。参加者1回目5人(41.7%)、2回目13人(108%) 古文書講座 定員30人。参加者22人~27人(73.3%~90.0%) 歴史セミナー定員30人。参加者1回目14人(46.7%)、2回目28人(93.3%)			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A: 妥当である 郷土文化講座については、民間に類似のものは見当たらないため、行政が関与すべき事業である。美術実技講座については、参加しやすい経費としていることから芸術文化の振興に大いに寄与している。		A: 有効である 郷土文化講座は、民間との類似性は少なく、参加希望者も多数ある。また、美術実技講座の内容や参加料についても、初心者に参加しやすいものとしているため、芸術文化の振興に大いに寄与している。		A: 効率的である 予算内の金額で講師を引き受けてもらっているため、効率的である。			
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A: 実現している ウェブサイトや広報もばら、各地域情報紙4社に情報提供を行っている。記事については引き続き初心者が興味を持つようにしていく。		B: 実現に向けて取り組んでいる 小学生については夏休みに開催するなど参加しやすい日程設定に努めている。		B: 実現に向けて取り組んでいる 参加者に対してアンケートを実施したり、参加者から感想をいただいたりして、講座の内容や実施方法を考慮する。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
	B: ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		全般的に応募定員数7割超の参加があるものの、一部参加者数がこの基準を下回った。講座の内容については、参加者アンケートや参加者の感想では、むしろ高評価である。実施時期やPRに配慮が必要である。なお、古文書講座の受付方法は、先着順から抽選に変更し、受付時のトラブルを解消した。					
	企画政策課での評価とその理由							
	B: ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)		講座参加人数及び参加者案アンケートからも概ね成果があったと認められる。引き続き、周知方法や実施方法の創意工夫により参加者の増加を図ることで、市民に芸術文化・郷土の歴史に触れ、学習機会の提供に努めていただきたい。					
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								
ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定				令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術実技講座開催回数 ・古文書講座開催回数 ・歴史セミナー開催回数 				講座の参加人数(応募定員数7割以上を目標とする)			
令和2年度における具体的な目標				令和2年度における事務事業スケジュール				
美術実技講座については、一般向けを1回開催する。 郷土文化講座については、歴史セミナーを3回、古文書講座を6回開催する。				美術実技講座については、一般向けを年1回(3月)に開催する。 古文書講座を年6回開催する。 歴史セミナーは年3回(7月・10月・3月)開催する。				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	02	02	文化振興事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	08	文化振興事業

実施計画整理番号	
106020201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 市民生活に豊かさを与え、文化の薫り高い茂原市を築く。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 芸術文化鑑賞会や小中学校音楽鑑賞教室を実施する。 各文化団体を支援する。
令和元年度の具体的な目標 より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。 文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。	令和元年度スケジュール 小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)富士見中・茂原中・西陵中(小)東郷小・豊田小・茂原小・本納小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	3,848	3,848	3,758	3,848	4,400	4,382	4,048	4,048	3,958	4,048	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	2,323	2,323	0	2,323	2,359	2,359	2,559	2,559	2,559	2,559	0	0
	一般財源	千円	1,525	1,525	3,758	1,525	2,041	2,023	1,489	1,489	1,399	1,489	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	小中学校音楽鑑賞教室の開催	630	630	540	1校が休校により中止したが他の6校は予定通り実施した。今後も実施していく。
②	芸術文化鑑賞会の開催	0	0	0	親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞機会を提供した。今後も実施していく。
③	もばら音楽祭の支援	310	310	310	もばら音楽祭実行委員会が企画運営する音楽祭に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
④	文化団体の活動支援	3,108	3,108	3,108	文化団体に対して財政的な支援を行った。今後も支援していく。
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		4,048	4,048	3,958	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

小中学校音楽鑑賞会の開催(中)富士見中・茂原中・西陵中(小)東郷小・豊田小・茂原小 ※本納小は休校により中止
 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会
 もばら音楽祭の支援 「幸田浩子とJ・スコラーズ」
 文化団体の活動支援 茂原市文化協会(会報発行等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)

PLAN(計画)

DO(実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106020201
1	06	02	02	文化振興事業	9	05	01	08	文化振興事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	音楽鑑賞教室の開催日数 6校で1回実施、全6回 芸術文化鑑賞会の開催日数 全5回 補助金の交付件数 5件					音楽鑑賞教室の参加者数 1,999名(実施校の児童生徒数により増減) 芸術文化鑑賞会の参加者数 163名 活動が活性化された団体数 全ての団体で活発な活動が行われた。				
	妥当性の評価とその理由			有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由			
	A:妥当である 芸術文化事業の実施や文化団体を支援することで、市民の芸術文化活動を推進できる。			A:有効である 事業(団体)を継続的に実施、支援していくことが芸術文化の振興につながり、文化団体の安定的な活動も期待できる。			A:効率的である 初心者や小中学生が親しみやすい事業の計画や補助金交付団体の補助対象経費の精査を行っている。			
	「情報の共有」の状況とその理由			「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由			
	A:実現している 市民参加の事業は、市広報、ホームページで募集している。小中学校音楽鑑賞教室は保護者への案内も行っている。			A:実現している 芸術文化鑑賞会は参加者から口頭で感想などを聞いている。小中学校音楽鑑賞教室は感想や要望を報告書に記載している。			A:実現している 小中学校音楽鑑賞教室は実施校に企画立案を任せることで特色ある事業を実施している。			
	所管による評価とその理由、課題・問題点									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 芸術文化鑑賞会は定員を超える申込みもあり概ね好評である。引き続き親しみやすく、かつ優れた芸術文化の鑑賞の機会を充実させていく。 小中学校音楽鑑賞教室は、日頃接する機会の少ない楽器等の生演奏を鑑賞できる機会として学校、児童生徒から好評を得ている。 文化団体(事業)の支援を継続していくことで、市民文化活動が継続され、芸術文化の振興につながる。									
	企画政策課での評価とその理由									
	A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 文化活動団体を支援することで組織活動の強化が図られたと認めることができる。引き続き、支援により市民文化活動を充実させるとともに、市民が芸術文化に触れる機会を提供し芸術文化の振興に努めていただきたい。									
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽鑑賞教室の開催日数 ・芸術文化鑑賞会の開催日数 ・活動を支援した団体数 					<ul style="list-style-type: none"> ・音楽鑑賞教室の参加者数 ・芸術文化鑑賞会の参加者数 ・団体の会員数 				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
より多くの市民に芸術文化に触れる機会を提供する。 文化関係団体を財政的に援助することで組織活動の強化を図る。					小中学校音楽鑑賞教室の開催(中)南中・本納中(小)二宮小・西小・五郷小・萩原小・豊岡小 芸術文化鑑賞会の開催 ミュージカル鑑賞会、能・狂言鑑賞会、新春歌舞伎観賞会 もばら音楽祭の支援、文化団体の活動支援 茂原市文化協会(文化祭等) 茂原市音楽協会(音楽の広場等) 南総合合唱連盟(南総コーラスのつどい) 茂原交響楽団(定期演奏会等)					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	文化財保護保存事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	10	文化財保護保存事業

実施計画整理番号	
106030101	
総合戦略整理番号	32303

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 文化遺産である文化財を永く後世に伝え、また有効活用することによりその普及を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 茂原市文化財審議会の開催、指定文化財等の保護保存、郷土芸能保存団体の活動支援を実施する。
令和元年度の具体的な目標 水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。文化財の調査を実施し、保護保存に努める。郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。	令和元年度スケジュール ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ発生地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	1,451	2,501	2,351	1,253	1,395	1,260	1,501	1,510	1,455	1,263	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	268	268	279	268	268	281	268	268	282	268	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	140	140	49	140	80	53	60	60	39	60	0	0
	一般財源	千円	1,043	2,093	2,023	845	1,047	926	1,173	1,182	1,134	935	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	ミヤコタナゴ・ヒメハルゼミ発生地の保護活動	412	412	374	保護協議会を開催するとともに、地元住民と協働し保護に努めた。
②	市指定文化財及び文化遺産の保護・管理活動	685	731	714	市指定文化財等の保護保存、文化財管理者への管理謝礼を支払った。
③	郷土芸能等保存団体の活動支援	280	280	280	保存団体に対して財政的な援助を行った。今後も支援していく。
④	郷土芸能発表会の開催	36	36	36	発表会を開催することで、郷土の伝統芸能に触れる機会を提供した。今後も実施していく。
⑤	茂原市文化財審議会の開催	88	51	51	文化財の散逸を防ぎ後世に伝えるため、文化財の調査・指定等を行った。
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		1,501	1,510	1,455	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

ミヤコタナゴ生息地の環境整備
 ヒメハルゼミ発生地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催
 郷土芸能等保存会への補助金交付、七夕まつり郷土芸能発表会の開催(3団体出演)
 茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定(2件)篠崎家文書・龍鑑寺欄間彫刻三面、市指定文化財管理謝礼38件

PLAN(計画)

DO(実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	文化財保護保存事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	10	文化財保護保存事業

整理番号
106030101

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
地元住民と協働による環境整備の実施回数 3回(タナゴ、セミ) 協議会等の開催回数 3回(文化財、セミ) 調査の実施回数 3回(セミ、文化財・郷土資料) 郷土の文化財に触れる機会の提供回数 1回(郷土芸能)	参加人数 環境整備 タナゴ76名 セミ5名 ヒメハルゼミ抜殻調査 85名				
妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由	
A:妥当である	国県市指定文化財等の保護保存を図ることで、文化財に対する理解を深める。	A:有効である	文化財に対する理解が深まることで、郷土愛を育成することができる。	A:効率的である	文化財審議会や保護協議会等の意見をまとめながら事業を進めている。
「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由	
A:実現している	市広報紙や市ウェブサイトを活用して文化財に関する情報を提供している。	A:実現している	保護協議会に地元住民や関係団体が参加することで意見や要望の機会を提供している。	A:実現している	環境整備や郷土芸能発表会を地元住民や保存団体と協働して行っている。
所管による評価とその理由、課題・問題点					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	ミヤコタナゴ、ヒメハルゼミ発生地の環境整備は、地元住民、関係機関と協働し環境改善が図られている。 市指定文化財を新規に指定し、文化財の保護保存、周知を図った。 郷土芸能等保存団体に対し財政的援助を行うとともに、発表会を開催し郷土の文化に触れる機会を提供した。				
企画政策課での評価とその理由					
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業は、市民が文化財に対する理解を深め、郷土愛の醸成を図る目的に一定の成果があったと認められる。引き続き、関係団体と連携して事業に取り組むとともに、文化財及び郷土芸能等について、より一層の周知に努めていただきたい。				
政策調整会議での評価とその理由					
庁議における方針					

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
地元住民と協働による環境整備の実施回数 協議会等の開催回数 調査の実施回数 郷土の文化財に触れる機会の提供回数	・参加人数 ・新規市指定文化財の件数				
令和2年度における具体的な目標		令和2年度における事務事業スケジュール			
水路の護岸の修繕によりミヤコタナゴの生息環境の改善を図る。 文化財の調査を実施し、保護保存に努める。 郷土芸能保存団体を財政的に支援することにより、組織活動の強化を図る。		ミヤコタナゴ生息地の環境整備、自然観察会の開催、保護協議会の開催 ヒメハルゼミ生息地の環境整備、抜殻調査の実施、保護協議会の開催 茂原市文化財審議会の開催(年2回)、市指定文化財の新規指定を予定(2件)、市指定文化財管理謝礼			

CHECK(評価)

ACT(改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	01	郷土資料館展示事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	02	郷土資料館展示事業

実施計画整理番号	
106030103	
総合戦略整理番号	32103

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 広く市民に文化財を公開し、郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会を提供することにより、文化財に対する理解を深め、文化財保護思想を普及する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 郷土の歴史について周知を図るため、郷土資料館常設展示を開催する。 特に子どもたちへの理解と愛着を深められるよう、学校からの見学への解説対応や出前講座などを行う。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
常設展示1回、テーマ展2回のテーマ展、歴史セミナーを3回開催する。リニューアルした常設展示を充実させる。 学校等からの見学に対する展示解説対応や、学校等への出前講座を引き続き行う。 より広く文化財の保護保存の啓蒙に努めるとともに、市史編さん事業で得られた資料等を展示に活用していく。	常設展示の入替え、テーマ展の開催など定期的な展示替を行う。また同時に寄贈、寄託された資料の整理を進めていく。例年同様に学校からの見学依頼や出前講座の依頼にも積極的に対応していく。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	26	26	26	26	16	16	26	26	23	26	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	26	26	26	26	16	16	26	26	23	26	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	郷土資料館常設展の開催	26	26	23	テーマ展の開催(年2回) 常設展示の開催(年2回)
②					
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		26	26	23	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)
テーマ展の開催(年2回 6/29~10/20、R2/1/25~3/31) 常設展示の開催(年2回 3/30~6/16、10/26~R2/1/13) 学校からの見学対応 緑ヶ丘小1回 出前講座の対応 鶴枝小2回、中の島小2回、本納小1回、東郷小1回、茂原ロータリークラブ1回

PLAN(計画)

DO(実施)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030103
1	06	03	01	郷土資料館展示事業	9	05	05	02	郷土資料館展示事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況							
	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の実施回数 2回 ・常設展のリニューアル回数 2回 ・展示開催、内容に関する情報提供先の箇所数 4社 ・出前講座の実施回数 7回 ・学校等からの見学時の展示解説対応回数 1回 ・学芸員による歴史セミナーの開催回数 2回 					年間入館者数 40,139人(目標35,000人)							
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由							
	A:妥当である		学芸員や市史編さんのための調査研究により、市内に現存する優れた文化財や館収蔵資料を展示し、広く市民に、郷土の歴史を学習する機会を提供するものである。			A:有効である			近隣他館との類似性はあるが、当館でしか見られない歴史資料(県指定文化財 人車)や考古資料(県指定文化財 国府関連遺跡出土木製品)等を展示している。		A:効率的である		必要最小限の予算で事業を執行している。
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由							
	A:実現している		ウェブサイトや広報もばらの他、地域情報紙4社に情報を提供している。			A:実現している			休館日や展示替期間中以外は、すべて観覧できる。		B:実現に向けて取り組んでいる		市史編さん事業が進むにつれて、資料提供者が多くなった。寄贈・寄託資料も増え、展示に活用できる資料が増えてきた。
所管による評価とその理由、課題・問題点													
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)													
年間入館者数値目標を上回っており、学校からの見学対応や出前講座を活発に行っている。年2回の企画展や常設展も目標どおり実施し、テーマ展の実施をとおして新たな資料の寄贈を関係者から受けることができた。しかしながら、展示スペースが手狭である他、収集した資料をより効果的に公開するために、展示用パネル、ガラスケースの購入が必要である。													
企画政策課での評価とその理由													
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)													
年間入館者総数は前年に比べ減少したものの、当初の目標を上回っておりまた、計画どおり展示会等も実施したことから、一定の成果を挙げたものと認められる。今後も、創意工夫による展示会の実施や出前講座等の実施により、市民に郷土の歴史文化に触れ、学習できる機会の提供に努めていただきたい。													
政策調整会議での評価とその理由													
庁議における方針													

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・企画展の実施回数 ・常設展の実施回数 ・出前講座の実施回数 ・学校等からの見学時の展示解説対応回数 					・年間入館者数 35,000人以上				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
テーマ展を年2回、常設展を年2回開催する。 学校等への出前講座や、学校等からの見学時の展示解説対応を引続き行う。 市史編さん事業で収集した資料を展示に活用する。					常設展示 6/1~8/30、12/26~R3/3/7 企画展「戦時中の暮らし展」 9/12~12/20 企画展「スマートインターチェンジ」設置に伴う発掘調査の結果—第3次国府関連遺跡— R3/3/20~6/20 寄贈、寄託された資料の整理 通年 出前講座の依頼や学校からの見学依頼の対応 通年					

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	06	03	02	市史編纂事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	05	07	市史編纂事業

実施計画整理番号	
106030201	
総合戦略 整理番号	32103

事務事業の概要	
<p>事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)</p> <p>昭和30年に本納町史が、昭和41年に茂原市史が刊行されて以来、市史の発行は無い。市制70周年を目前に市史刊行を行い、市民に茂原市の歴史の変遷を明らかにしてゆくとともに、郷土愛を育み、後世に市の歴史を継承する。</p>	<p>活動内容(目的を達成するために何をを行うか)</p> <p>市史編纂委員会の会議に基き、出張を伴った、市内外にある茂原市に関する資料等の所在調査、目録作成を行う他、市史の原稿執筆を依頼するなど本格的な活動を行う。</p>
<p>令和元年度の具体的な目標</p> <p>調査執筆委員の委嘱、協力員の選定 市史編さん委員会の開催により、茂原市史調査報告書の刊行 市史編さん事業講演会の実施 編さん事務の加速のため、写真データの格納方法の検討</p>	<p>令和元年度スケジュール</p> <p>基本年4回の編さん委員会の実施 調査にあたり課題が生じた場合の関連分野に係る編さん委員、及び調査執筆委員等の会議の実施 7月に第1回調査執筆委員を委嘱し、その後必要な分野における執筆委員の委嘱と協力員の選定をすすめる。 11月 必要な経費を令和2年度当初予算要求 年度末 調査報告書の刊行</p>

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	2,505	2,261	2,696	3,138	2,712	5,366	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	0	0	0	0	5	11	5	5	4	0	0	0
	一般財源	千円	2,200	2,200	2,108	1,909	2,500	2,250	2,691	3,133	2,708	5,366	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	市史編纂調査員による資料調査	1,647	2,089	1,943	茂原市史調査74回、資料調査46回
②	市史編纂委員会の開催	290	290	145	全4回のうち3回開催
③	市史調査報告書(旧資料集)の刊行	759	759	624	茂原市史調査報告書第4集の刊行
④	市史の原稿執筆依頼	0	0	0	
⑤	市史編さん業務備品の整備	0	0	0	
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,696	3,138	2,712	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

市史編さん委員会の開催(年3回) 4/21、7/20、12/1
 市史編さん調査員による調査 市史調査74回、資料調査46回
 市史調査報告書第4集の刊行 500部
 講演会の実施(1回) R2/2/15

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目				整理番号	
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	106030201
1	06	03	02	市史編纂事業	9	05	05	07	市史編纂事業	

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・市史編さん委員会開催回数 3回 ・調査執筆委員委嘱人数 12人 ・調査協力員選定数 4人 ・調査員による調査回数 46回 ・有識者による調査回数 74回 	<ul style="list-style-type: none"> ・茂原市市史調査報告書(第4週)発行冊数 500部 ・資料調査回数 120回 ・市史編纂事業講演会の参加者数 21人

妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
<p>A:妥当である</p> <p>市史の発行は客観的かつ専門的知識が求められるものであり、市が編さんしていく必要がある。</p>	<p>A:有効である</p> <p>『本納町史』(昭和30年)、昭和38『豊岡村誌』(同昭和38年)、茂原市史(同昭和41年)刊行より年数が経過し、この間、新たな史料が多数発見されているため、市史全体の見直しが必要となっている。</p>	<p>A:効率的である</p> <p>市史編さん委員会委員、調査執筆委員、調査員は経験豊富で、専門性が高いにもかかわらず、民間委託に比べ、安価で効率的である。</p>

「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
<p>A:実現している</p> <p>市民に対して、市史編さんのための資料提供を広報もばら等の情報媒体により発信し、現に協力をいただいている。調査の成果も講演会や広報等で公開している。</p>	<p>A:実現している</p> <p>市史編さんのため、専門家の意見、知識技術の提供を受けている。また、市民・市内会社から資料提供を受けている。</p>	<p>A:実現している</p> <p>市民・市内会社から資料提供を受けている。</p>

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	概ね活動指標8割以上達成した。令和4年度に市史の刊行が開始となることから、調査とともに、原稿の執筆依頼を進めていく必要がある。また、令和4年度以降2年度ごとに市史を刊行していく計画のため、調査報酬、原稿執筆、印刷製本のための予算を継続的に確保していく必要がある。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	資料調査や調査報告書の刊行を行い、一定の成果が挙げていると認めることができる。引き続き、市史の刊行に向けて資料提供の周知などに取り組むとともに、調査の成果を公開することにより、市民の郷土愛の醸成に努めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
市史編さん委員会開催回数 調査員の調査回数 有識者等による調査回数	原稿執筆ページ数(筆耕料の支出額) 茂原市史調査報告書、及び関連資料の発行冊数 講演会の参加者数

令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
市史編さん委員会の開催 茂原市史資料編(原始・古代・中世)の刊行に向けた、調査と原稿執筆の実施 市史編さん事業講演会の開催 茂原市史調査報告書の刊行	市史編さん委員会の開催 年4回 調査 通年 原稿執筆 10月より 市史編さん事業講演会 令和3年2月 茂原市史調査報告書の刊行 9月まで第5集、令和3年3月まで第6集を刊行する

CHECK (評価)

A C T (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	01	青少年健全育成事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	04	青少年健全育成事業

実施計画整理番号	
107010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 青少年の健全育成を推進する。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 関係団体を助成するとともに、青少年健全育成事業を実施する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。	・関係団体への補助金交付 ①青少年相談員連絡協議会 922千円 ②青少年育成茂原市民会議 986千円 ③少年少女発明クラブ 30千円 ④茂原市子どもセンター 261千円 ・青少年問題協議会の開催(1回)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	2,399	2,399	2,399	2,399	2,417	2,417	2,362	2,362	2,284	2,362	0	0
財源内訳	国補助	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	400	400	400	400	400	395	375	375	375	375	0	0
	市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	1,999	1,999	1,999	1,999	2,017	2,022	1,987	1,987	1,909	1,987	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	青少年相談員の活動支援	978	978	978	青少年相談員連絡協議会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
②	スポーツ大会の開催	71	71	0	青少年相談員連絡協議会と共催でつつじマラソン大会を開催した。今後も継続して実施する。
③	青少年育成茂原市民会議・青少年問題協議会の開催	1,022	1,022	1,015	青少年育成茂原市民会議に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。青少年問題協議会を開催、青少年に関する事項を協議した。今後も継続する。
④	茂原少年少女発明クラブの活動支援	30	30	30	茂原少年少女発明クラブに補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑤	子どもセンターの運営支援	261	261	261	茂原市子どもセンター協議会に補助金を交付し、活動を支援した。今後も引き続き支援を行う。
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		2,362	2,362	2,284	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・青少年の健全育成を図るため、関係団体に補助金を交付し活動を支援した。
- ①青少年相談員連絡協議会 922千円(つつじマラソン大会、ふぁみりーグラウンドゴルフ、パトロール等)
- ②青少年育成茂原市民会議 986千円(少年の主張大会、ジャンピング大会、標語コンクール、講演会等)
- ③茂原少年少女発明クラブ 30千円
- ④茂原市子どもセンター協議会 261千円
- ・青少年問題協議会を開催(1回)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	107010101
1	07	01	01	青少年健全育成事業	9	05	01	04	青少年健全育成事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況				令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付件数 4件 ・青少年問題協議会の開催回数 1回 				<ul style="list-style-type: none"> ・活動が活性化された団体数 4団体 ・事業の参加者数 主張大会199人、ジャンピング大会(中止)、つつじマラソン大会(中止) ・青少年問題協議会の参加者数17人 			
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由		効率性の評価とその理由			
	A:妥当である	青少年の健全育成を図るためには関係団体の活動が不可欠であることから、支援は妥当である。	A:有効である	青少年育成事業の充実、環境浄化、非行防止等、各団体の目的達成のために補助金が有効活用されている。	A:効率的である	団体の運営資金の一部を補助しており、効率的である。		
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由		「協働」の状況とその理由			
	A:実現している	市のウェブサイトや広報、各団体の広報紙により活動等を公表している。	A:実現している	各団体の意見を反映している。	A:実現している	市民で構成される団体である青少年相談員と青少年育成茂原市民会議の事務局を生涯学習課が務めている。		
	所管による評価とその理由、課題・問題点							
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	青少年健全育成で成果を挙げるためには長期的な取り組みが求められることから、関係団体の活動支援や団体との共同事業の実施は今後も継続していく必要がある。また、事業の効果を高めるためにPRの強化も必要。なお、青少年相談員の選出について、自治会加入率が低下し続けていること等から自治会に依存する現在の形態を見直し、より広範な対象から選出できるような方法への移行が課題である。							
企画政策課での評価とその理由								
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	各取組は青少年の健全育成に一定の成果があったものと認められる。引き続き、適正に補助金を交付し関係団体の活動を支援するとともに、より一層の市民等への周知及び関係団体と連携した事業実施により、参加者の増加に努めるものとする。							
政策調整会議での評価とその理由								
庁議における方針								

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定				令和2年度成果指標(アウトカム)の設定			
	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を支援した団体数 ・青少年問題協議会の開催回数 ・青少年健全育成関連事業の実施回数 				<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成関連事業への参加者数 			
令和2年度における具体的な目標				令和2年度における事務事業スケジュール				
<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体に補助金を交付し、活動を支援する。 ・関係団体との連携を強化するとともに、情報提供の充実を図る。 				<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体への補助金交付 <ul style="list-style-type: none"> ①青少年相談員連絡協議会 (3月) ②青少年育成茂原市民会議 (6月概算払) ③少年少女発明クラブ (3月) ④茂原市子どもセンター (6月概算払) ・関係団体の会議、行事の開催 <ul style="list-style-type: none"> ①青少年相談員連絡協議会 (通年) ②青少年育成茂原市民会議 (通年) ・青少年問題協議会の開催 (3月) 				

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業

実施計画整理番号	
107010201	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
幼児・児童を持つ保護者を対象に学級・講座を開催し、幼児・児童の健やかな成長を推進する。	就学前の保護者を対象に「就学时子育て講座」、3歳児の保護者を対象に「幼児期家庭教育学級」、幼稚園児・小学生の保護者を対象に「家庭教育学級」を開催する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
参加者の増加を図る。	①幼児期家庭教育学級 実施予定回数 5回 ②家庭教育学級 実施予定回数 56回 ③就学児子育て講座 実施予定回数 14回

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	614	614	500	614	614	527	583	583	489	583	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	614	614	500	614	614	527	583	583	489	583	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	就学时子育て講座の開催	140	140	140	3歳児を持つ親及び養育者を対象に、親としての学習の機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
②	幼児期家庭教育学級の開催	137	137	108	幼稚園3園、小学校14校の保護者に、家庭での子の教育等の学習機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
③	家庭教育学級の開催	306	306	241	就学前の子どもを持つ保護者を対象に、子育てについての学習の機会を提供した。今後も引き続き事業を実施する。
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		583	583	489	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ①幼児期家庭教育学級 実施回数 5回 / 延べ参加人数 74人
- ②家庭教育学級 実施回数 52回 / 延べ参加人数 1,813人
- ③就学児子育て講座 実施回数 14回 / 延べ参加人数 609人

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	家庭教育学級開催事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	03	家庭教育学級開催事業

整理番号
107010201

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況
・開催回数 ①幼児期家庭教育学級 5回 ②家庭教育学級 52回 ③就学児子育て講座 14回	・参加人数(累計) ①幼児期家庭教育学級 74人 ②家庭教育学級 1,813人 ③就学児子育て講座 609人

妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 社会教育法で市町村教育委員会事務の一つに位置付けられている。また、総合計画とも整合するものであり、妥当である。	A:有効である 受講後のアンケートでは概ね良好な評価が得られており、有効である。	A:効率的である 必要最低限のコストで実施しており、効率的である。

「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
A:実現している 各学級、講座の対象者に情報を提供している。	A:実現している アンケートにより受講者の意見を吸い上げている。	A:実現している PTA等と協力して実施している。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	子どもの発達段階に応じた学級を開催し、ニーズに対応した。事後の評価も概ね良好であり、十分な成果を挙げている。子どもの健全な成長にとって家庭教育が果たす役割は非常に重要であり、本事業は行政の取り組みとして優先度は高いと考える。このことから、今後も事業内容を縮小することなく継続して提供していくことが望ましい。

企画政策課での評価とその理由	
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)	本事業は、保護者に学習機会を提供することで、子どもの健全な育成に一定の成果があったと認められるものである。今後は、より一層の周知を図るとともに保護者の事業に対するニーズの把握に努め、参加者の増加につなげていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	
	/

庁議における方針	
	/

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
・開催回数	・参加人数(累計)

令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
参加者の増加を図る。	①幼児期家庭教育学級 実施予定回数 5回 ②家庭教育学級 実施予定回数 64回 ③就学児子育て講座 実施予定回数 14回

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業

実施計画整理番号	
107010202	
総合戦略整理番号	22304

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 夏休み期間中の子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢交流、地域教育力の活性化を目的に夏休み子ども教室を開催する。また、放課後子どもプラン運営委員会において事業の検証を行い、開催校を順次増やすことで推進を図る。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) ・夏休み子ども教室の開催校を増やす ・放課後子どもプラン運営委員会の開催(年2回) ・コーディネーターの育成のため各種研修会に参加する
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
平成29年度から1校増やした6校で開催する。	・豊田っ子クラブ 期間:7/25~7/27 平日3日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/31~8/2 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/6~8/8 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/8~8/10 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間:8/20~8/22 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/27~8/29 平日3日間

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	377	377	301	472	448	284	379	373	259	379	0	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	200	313	298	188	252	252	172	252	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	127	127	101	159	150	96	127	121	87	127	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	放課後子どもプラン運営委員会の開催	88	82	36	事業実施前後に1回ずつ会議を実施し(事後会議は新型コロナウイルス感染症対策のため書面会議)事業の検証を行った。現状維持。
②	夏休み子ども教室の開催	291	291	223	豊田小、緑ヶ丘小、中の島小、鶴枝小、本納小、茂原小の6校で実施した。拡大。
③					
④					
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		379	373	259	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)				
・豊田っ子クラブ	期間:7/22~7/24 平日3日間	会場:豊田小学校	申込児童:73名	
・緑ヶ丘っ子クラブ	期間:7/29~7/31 平日3日間	会場:緑ヶ丘小学校	申込児童:28名	
・中の島っ子クラブ	期間:8/5~8/7 平日3日間	会場:中の島小学校	申込児童:51名	
・鶴枝っ子クラブ	期間:8/7~8/9 平日3日間	会場:鶴枝小学校	申込児童:60名	
・本納っ子クラブ	期間:8/19~8/21 平日3日間	会場:本納小学校	申込児童:34名	
・茂原っ子クラブ	期間:8/26~8/28 平日3日間	会場:茂原小学校	申込児童:46名	

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	02	放課後子ども教室推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	01	12	放課後子ども教室推進事業

整理番号
107010202

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況	
教室開催日数 ・豊田っ子クラブ 期間:7/22～7/24 平日3日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/29～7/31 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/5～8/7 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/7～8/9 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間:8/19～8/21 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/26～8/28 平日3日間	参加児童数 ・豊田っ子クラブ 延参加人数: 113名(1日平均37.7名) ・緑ヶ丘っ子クラブ 延参加人数: 76名(1日平均25.3名) ・中の島っ子クラブ 延参加人数: 131名(1日平均43.7名) ・鶴枝っ子クラブ 延参加人数: 123名(1日平均41.0名) ・本納っ子クラブ 延参加人数: 89名(1日平均29.7名) ・茂原っ子クラブ 延参加人数: 122名(1日平均40.7名)	
妥当性の評価とその理由 A:妥当である 国の推進する放課後子供プランによる事業であり。妥当である。	有効性の評価とその理由 A:有効である 事業の意図する子どもの安心・安全な居場所作りと異年齢交流は達成されており有効である。	効率性の評価とその理由 A:効率的である 費用は運営委員の報酬、コーディネーターの謝礼及び最低限の消耗品費のみであり、削減の余地は無い。
「情報の共有」の状況とその理由 A:実現している 広報及びウェブページにより周知している。	「参加」の状況とその理由 A:実現している 事業の検証等を行う「放課後子どもプラン運営委員会」に委員として市民が参加している。	「協働」の状況とその理由 A:実現している コーディネーター、学習支援ボランティアとして地域住民が運営に参画している。
所管による評価とその理由、課題・問題点 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 教室の運営は地域住民であるコーディネーターや長寿会、高校生などのボランティアによって適正に行われ、事業目的である子どもの安心・安全な居場所作りと異年齢交流は達成できており、参加児童及び保護者、参加ボランティアからも好評を得ているが、今後の課題としてコーディネーターとして活動し得る人材の発掘と育成がある。また、通年型・一休型の放課後子ども教室の実施を目指す。		
企画政策課での評価とその理由 A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上) 夏休み期間中の子どもの安全・安心な居場所づくりと異年齢交流及び地域教育力の活性化に、一定の成果が挙げられていると認められる。引き続き、開催校及び定員の拡充をはかるとともに、コーディネーターの発掘等により内容の充実を努めていただきたい。		
政策調整会議での評価とその理由 (This section is currently blank in the image)		
庁議における方針 (This section is currently blank in the image)		

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
・夏休み子ども教室の開催数	参加者アンケートで「子どもを参加させて良かった」と答えた保護者の割合
令和2年度における具体的な目標 定員を拡大し、可能な限り多くの児童を受け入れる。	令和2年度における事務事業スケジュール ・豊田っ子クラブ 期間:7/22～7/24 平日3日間 ・緑ヶ丘っ子クラブ 期間:7/29～7/31 平日3日間 ・中の島っ子クラブ 期間:8/3～8/5 平日3日間 ・鶴枝っ子クラブ 期間:8/5～8/7 平日3日間 ・本納っ子クラブ 期間:8/17～8/19 平日3日間 ・茂原っ子クラブ 期間:8/24～8/26 平日3日間

CHECK (評価)

ACT (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	07	01	03	青少年相談指導事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
9	05	04	01	環境浄化と非行防止事業

実施計画整理番号	
107010301	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか) 茂原市青少年補導員連絡協議会と連携し、街頭補導・相談活動・環境浄化活動・啓発活動を推進し、青少年の健全育成に努める。	活動内容(目的を達成するために何を行うか) 「夜間の街頭補導」を充実する。 「列車補導」「茂原七夕まつり」「県下一斉パトロール」等の啓発補導を充実する。 他支部との連携や研修会へ補導員とともに積極的に参加する。 相談体制を整え相談活動をより充実する。 ネットパトロールを充実する。 登下校時のパトロールを充実する。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。	①街頭補導活動→夜間補導(6月～3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(7月)、列車補導(10～11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度		
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算
事業費	千円	1,295	1,300	1,229	1,257	1,242	1,231	1,263	1,263	1,215	1,268	1,267	0
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	県補助	千円	250	250	250	250	250	250	250	250	250	250	0
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	1,045	1,050	979	1,007	992	981	1,013	1,013	965	1,018	1,017

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	街頭補導活動の実施	869	869	868	524回の街頭補導を実施し、409人(前年比+104人)を補導した。今後も非行防止、早期発見のため関係機関と連携し、巡回を強化していく。
②	相談活動の実施	0	0	0	105件(前年比-68件)の相談を受理した。中・高生に関する相談が主である。今後もしおりの配布や広報誌「くす」を通して、相談窓口としての周知に努めていく。
③	環境浄化活動の実施	69	69	68	ネットパトロールを通して不適切な書き込み等を報告し、改善した。また、携帯電話やスマートフォンの安全な使用についてのリーフレットを配布し、啓発に努めた。
④	非行防止の啓発	165	165	164	リーフレットや広報誌「くす」の中で非行防止について訴えたり、家族に向けての子育てアドバイスを掲載したりした。今後も紙面の充実を図り、啓発を強化していく。
⑤	子どもの安全を守る活動の実施	160	160	115	登校時(週3)・下校時(週5)の巡回をし、通学路の安全確保を行った。また、不審者の発生した場所を巡回することで抑止に努め、地域の安全安心を守る活動を行った。
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		1,263	1,263	1,215	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ①街頭補導活動(青少年補導員との実施回数…夜間補導61回、列車補導3回、七夕祭り補導2回、啓発補導2回)
(指導センター職員のみの実施回数…夜間補導8回、学校行事特別巡回4回)
- ②安全・安心な使用のためのリーフレット「ケータイ&スマホは正しく安全に使いましょう」の配布(5月) 悩み・相談用しおりの配布(10月)

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画				予算科目				整理番号
章	節	項	細	款	項	目	事	107010301
実施計画事業名				事業名				
1	07	01	03	9	05	04	01	
青少年相談指導事業				環境浄化と非行防止事業				

令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況	令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導、七夕まつり補導、県下一斉パトロール、列車補導等、年間61回実施。 千葉ブロック研修会(1回)、中学校区研修会(6回)、その他の研修会参加により、識見を高め、青少年健全育成に取り組んだ。 不審者発生状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 補導状況(409人補導、主な行為:道路交通法違反、怠学) 青少年補導員(補導・研修会)参加率70% 相談状況(相談件数105件、主な内容:家庭生活、学校生活) 不審者発生状況(44件)の情報提供

妥当性の評価とその理由	有効性の評価とその理由	効率性の評価とその理由
A:妥当である 青少年健全育成を目指した街頭補導事業は、公的な関係機関及び市民との連携が必要である。その推進役として自治体が関与すべき事業である。	A:有効である 日々の地道な補導活動や関係機関との情報共有等は、青少年の健全育成・非行防止に役立っている。	B:やや効率的である 28年度より報酬額の増額となったが、補導員の活動実績を考慮すると他市と同額程度の報酬額を支給すべきである。

「情報の共有」の状況とその理由	「参加」の状況とその理由	「協働」の状況とその理由
A:実現している 広報紙「くす」により補導・相談状況及び不審者情報を掲載し、市民に提供している。また、不審者情報はホームページで公表している。	A:実現している 指導センター運営協議会を年2回開催し、10名の委員から事業に対する助言をいただいている。	A:実現している 補導員とセンター職員合同で街頭補導活動を行っている。

所管による評価とその理由、課題・問題点	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	学校や関係機関と情報の共有化を図り、情報を活用した街頭補導活動を実施することができ、非行防止・早期発見につながった。また、リーフレットの配布や広報紙「くす」等で啓発したことにより、小中学校は落ち着いている。心配のあった有職少年たちも定職に就き、オートバイでの迷惑走行も減ってきている。一方で、SNSを利用した交友関係が広域化している。市内だけでなく、近隣市町村や関係機関との密な情報交換が必要になる。

企画政策課での評価とその理由	
B:ある程度の成果を挙げた(達成度4割~7割)	各取組は、青少年の健全育成に一定の成果を挙げていると認められる。引き続き、青少年の非行防止・早期発見のため、関係機関と情報共有を図るとともに、青少年問題の相談活動の充実に努めていただきたい。また、スマートフォンやSNSの普及により、青少年を取り巻く環境も急速に変化していることから、ネットパトロール等の強化にも努めていただきたい。

政策調整会議での評価とその理由	

庁議における方針	

令和2年度活動指標(アウトプット)の設定	令和2年度成果指標(アウトカム)の設定
<ul style="list-style-type: none"> 青少年補導員70名を組織し、夜間街頭補導(55回)、七夕まつり補導(県下一斉パトロール)(2回)、列車補導(3回)等、年間60回実施。 千葉ブロック研修会(1回)、中学校区研修会(6回) 市補導研修視察(1回) その他の研修会への参加 ネットパトロール(140回) 不審者発生状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 補導状況(人数、内容) 青少年補導員(補導・研修会)参加率 相談状況(人数、内容) ネットパトロール実施状況(回数) 不審者発生状況の情報提供

令和2年度における具体的な目標	令和2年度における事務事業スケジュール
青少年の非行防止・早期発見のため関係機関との情報の共有化と迅速な対応を図る。 青少年問題の未然防止と相談窓口としての機能充実に努める。	①街頭補導活動→夜間補導(6月~3月)、七夕まつり補導(7月)、県下一斉パトロール(7月)、列車補導(10~11月) ②相談活動→通年、悩み・相談用しおり配布(10月) ③環境浄化活動→ネットパトロール通年 ④非行防止の啓発→リーフレット配布(5月)、広報紙「くす」(月1回 8月除く) ⑤子どもの安全を守る活動→登下校時パトロール(通年 8月除く)、不審者発生時の対応(随時)

CHECK(評価)

A C T (改善)

令和元年度 事務事業整理シート

基本計画				
章	節	項	細	実施計画事業名
1	08	01	01	国際化推進事業

予算科目				
款	項	目	事	事業名
2	01	09	02	国際化推進事業

実施計画整理番号	
108010101	
総合戦略整理番号	0

事務事業の概要	
事業の目的(【だれ・何】を【どのような状態】にするか)	活動内容(目的を達成するために何を行うか)
多くの市民が異文化に触れ、交流に参加できる機会を創出するとともに、姉妹都市交流などの国際交流活動を通じて市民の国際感覚や意識づくりに努める。また、在住外国人と、お互いの価値観や文化を尊重しながら暮らすことのできる多文化共生社会づくりを国際交流協会との協働により推進する。	・姉妹都市交流を推進し、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・国際交流協会と連携しながら、市民の国際意識の高揚を図るとともに、多文化共生社会の実現を目指す。
令和元年度の具体的な目標	令和元年度スケジュール
・姉妹都市ソルズベリー市から学生等の受け入れを通じ、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・国際交流協会活動の充実を図り、会員数の増加を目指す。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。	・姉妹都市ソルズベリー市から学生等を受け入れる。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。

区分	単位	H29年度			H30年度			令和元年度			令和2年度			
		計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	計画	予算	決算	
事業費	千円	385	1,455	1,122	1,797	4,359	3,478	968	1,085	849	4,166	0	0	
財源内訳	国補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	県補助	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	市債	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他	千円	284	284	1,022	1,697	4,259	3,378	868	868	749	4,066	0	0
	一般財源	千円	101	1,171	100	100	100	100	100	217	100	100	0	0

個別取組	内容	取組に係る費用(千円)			個別取組の達成状況及び今後の方向性
		計画	予算	決算	
①	姉妹都市学生等受入	367	367	131	学生及び教員の受入24名。今後も随時受け入れていく。
②	茂原市国際交流協会の活動推進	100	100	100	今後も活動が充実するよう支援し、活動拡大を目指す。
③	国際交流基金の積立	501	618	618	定期預金利子及び基金への寄附24件。今後も継続する。
④	姉妹都市への訪問団派遣	0	0	0	派遣なし。次回派遣はR3に実施予定。今後も4年ごとに実施予定。
⑤					
⑥					
⑦					
⑧					
⑨					
⑩					
事業費計		968	1,085	849	

令和元年度の実施状況(事務事業の実施内容等を箇条書きで具体的に記入)

- ・姉妹都市ソルズベリー市より学生及び教員24名を茂原市に迎えた。滞在中は茂原中学校を訪問し、琴の体験など日本文化に触れ、学生同士の交流を図った。
- ・茂原市国際交流協会では、「外国語教室」、「国際交流バスツアー」、「国際交流パーベキュー」等を開催し、在住外国人と市民の交流の機会の創出及び異文化間の相互理解、国際意識の醸成を図った。

令和元年度 事務事業評価シート

基本計画					予算科目					整理番号
章	節	項	細	実施計画事業名	款	項	目	事	事業名	108010101
1	08	01	01	国際化推進事業	2	01	09	02	国際化推進事業	

CHECK (評価)	令和元年度活動指標(アウトプット)の達成状況					令和元年度成果指標(アウトカム)の達成状況				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルズベリー市学生等受入回数及び人数:2回、34名 ・国際交流協会主催事業の実施回数:12回(PR事業2回、日本語学習支援事業1回、国際交流事業4回、外国語教室5教室) ・国際交流協会会員の加入促進:6名の新規会員が加入。107名。 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加人数:322名 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数:1名減 				
	妥当性の評価とその理由		有効性の評価とその理由			効率性の評価とその理由				
	A:妥当である 国際交流事業の実施により、市民の国際意識の醸成や異文化理解が進み、多様性を認める社会の構築に貢献している。		B:やや有効である 国際交流活動に参加している市民は一部に限定されている。在住外国人への支援もまだ十分と言えない。			A:効率的である 国際交流事業に必要な様々なスキルやノウハウを持つ個人や団体を有する国際交流協会との連携により、行政だけでは成し得ない事業を効率的に実施できている。				
	「情報の共有」の状況とその理由		「参加」の状況とその理由			「協働」の状況とその理由				
	A:実現している 市ウェブサイト、協会ホームページ、Facebook、自治会回覧や市広報誌などを利用し、PRIに努めている。		A:実現している 国際交流協会の会議には在住外国人を含む市民が参加し、企画から共に取り組んでおり、市民意見を積極的に取り入れて事業を実施している。			A:実現している 国際交流協会の活動は、在住外国人を含む市民との協働が実現できている。				
所管による評価とその理由、課題・問題点										
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市より学生及び教員34名を茂原市に迎えた。滞在中は茂原中学校を訪問し、琴の体験など日本文化に触れ、学生同士の交流を図ることができた。 ・大雨による災害や新型コロナウイルス感染拡大の影響により、年度後半の国際交流事業が中止となったが、おおむね事業を実施することができたことにより、市民が国際交流事業に参加する機会を創出できた。 								
企画政策課での評価とその理由										
A:十分な成果を挙げた(達成度8割以上)		市民が国際交流活動への参加機会は、社会的要因を考えても一定の成果を挙げていると認められる。引き続き、市民の国際理解、国際化意識の醸成を図ることに努めるものとする。								
政策調整会議での評価とその理由										
庁議における方針										

ACT (改善)	令和2年度活動指標(アウトプット)の設定					令和2年度成果指標(アウトカム)の設定				
	<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市からの学生等受入回数及び人数 ・国際交流協会主催事業の実施回数 ・国際交流協会会員の加入人数 					<ul style="list-style-type: none"> ・市民の国際交流活動への参加人数 ・国際理解・国際化意識の醸成された人数 				
令和2年度における具体的な目標					令和2年度における事務事業スケジュール					
<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市からの学生等の受け入れを通じ、学生や市民の国際交流の機会を創出する。 ・在住外国人が安心して暮らせるための事業及び在住外国人を支援する体制の強化を図る。 					<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹都市ソルズベリー市jから学生等を受け入れる。 ・国際交流協会主催による国際交流事業を実施し、市民が国際交流活動へ参加できる機会を創出する。 ・国際交流協会と協働し、在住外国人を支援する事業を実施する。 ・国際交流協会会員の加入を促進する。 					